

SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F

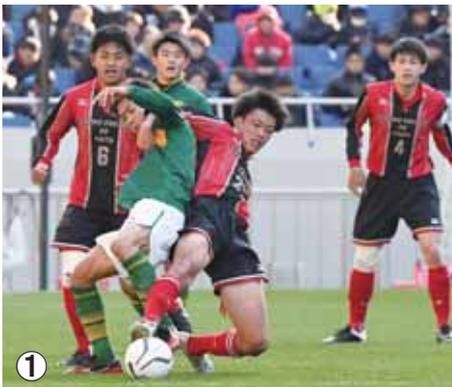
TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



vol.96

2020年3月31日発行



第98回全国高校サッカー選手権大会 矢板中央高校ベスト4 (第3位)

写真①②③ 2020年1月11日 埼玉スタジアム
写真提供/下野新聞社

2019年度栃木県サッカー協会表彰式

写真④ 2020年2月23日 ホテルニューイタヤ



contents

事務局より	
2019～2020年度役員	3
NEZASカップ第24回県サッカー選手権大会	4
第99回天皇杯全日本選手権	5
栃木サッカークラブ	
U-18チームからトップチームへ	6
U-12ジュニアワールドチャレンジ2019大会報告	6
第1種委員会・社会人連盟	
第74回国民体育大会関東ブロック大会を終えて	7
新たな歴史を歩みだした栃木シティフットボールクラブの挑戦は終わらない（栃木シティ）	7
2019年シーズンを振り返って（ヴェルフェ矢板）	8
第2種委員会・高校連盟	
栃高体連サッカー専門部委員長（男子）	9
令和元年度第62回関東高校サッカー大会に参加して（川上栄二）	10
令和元年度第62回関東高等学校サッカー大会に参加して（黒坂滯）	10
高校女子サッカー 総体予選	11
平成31年度栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会 兼 第62回関東高校サッカー大会県予選会組合せ	12
平成31年度第60回栃木県高等学校総合体育大会女子サッカー大会 兼 第8回関東高等学校女子サッカー大会栃木県予選会	13
令和元年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技栃木県予選会	14
栃木県トレセンU-16	
活動報告	15
第3種委員会・中学連盟	
第50回全国中学校サッカー大会・第50回関東中学校サッカー大会出場報告	15
第50回関東中学校サッカー大会（東京都）に出場して	16
第4種委員会・少年連盟	
第5回関東少年サッカー大会栃木県大会	17
JFAバーモントカップ第29回全日本U-12フットサル選手権大会栃木県大会	17
『tonan』第9回北関東（関東外環）U-12サッカー大会	18
2019 フジバンCUP 第43回関東少年サッカー大会 in 神奈川	19
ウェルフェアオフィサー研修会	19
シニア委員会・連盟	
JFA第7回全日本O-40サッカー大会関東予選会	20
JFA第18回全日本O-50関東予選サッカー大会	21
2019年度 KTFA第14回関東O-60サッカー大会 戦績表	22
キッズ委員会・連盟	
キッズ年代の育成と普及～地区から県へ～	23
フットサル委員会・連盟	
男子栃木フットサルリーグ 3部リーグ制スタート	24
栃木県フットサルリーグ2018表彰 女子ベスト5に中学生3人	24
女子委員会・連盟	
徳田明義新女子委員長が就任 関東で戦える県目指して	25
2年目を迎えた新生「栃木SCレディース」 久保田新監督に聞く	25
本県で関東女子サッカー選手権 栃木SCレディースは初戦敗退	26
審判委員会	
（公社）栃木県サッカー協会 審判委員会	26
女子審判委員会委員長挨拶	27
「栃木県からワールドカップ 主審を輩出するために・・・」 ～真岡カップにみる栃木県の若手審判員育成～	28
2019年全国インターハイに参加して	28
フットサル2級審判員になって	30
関東女子フットサルリーグを担当して	31
2級昇格試験に合格して	32
2級審判員として更なる精進を	32
サッカー2級審判員として	33
FFP研修に参加して	34
O-35審判員研修会に参加して（日本クラブユースサッカー選手権U-15大会）	35
勝利とフェアプレーの因果関係 ～第52回～全国高等専門学校サッカー選手権大会3位入賞～	36
2020年度 サッカー審判資格更新講習会	37
2020年度 フットサル審判資格更新講習会	37
技術強化委員会	
関東トレセンチーフコーチ研修会	38
関東FATレセンチーフコーチ研修会	39
第74回国民大会関東ブロック大会総括	39
賛助会員・協賛	
2019年度賛助会員募集のご案内	40
2019年度賛助会員ご芳名	42

2019年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者

1. 2019年度 (第47回) 太郎賞受賞者

- | | | |
|-----|--|---|
| 4 種 | 星 慶次郎
小林 凛
小佐久間 彪
野口 慶
酒井 舜哉
入江 希
柴野 快
中山 遥 | ヴェルフェたかはら那須U-12
カテット白沢
栃木サッカークラブ ジュニア
栃木サッカークラブ ジュニア
JFCファイターズ
足利レヴィータFC
FCみらい
ヴェルフェ矢板U-12 |
| 3 種 | 倉持 敦
倉野 耀
若林 祐 | 栃木サッカークラブ ジュニアユース
ヴェルディSS小山 ジュニアユース
宇都宮市立宮の原中学校 |
| 2 種 | 長江 皓
中三川 海 | 矢板中央高等学校
栃木サッカークラブ ユース |
| 女子 | 河野辺 楓
岡田 知 | 栃木サッカークラブ レディース
栃木サッカークラブ レディース |

2. 2019年度 (第32回) 森山賞受賞者

- | | |
|--------|--|
| 岸野 靖之 | 栃木シティフットボールクラブ 監督
第58回関東サッカーリーグ1部 第3位 |
| 窪 堀 宏一 | 栃木シティフットサルクラブ 監督
JFA第25回全日本フットサル選手権大会 関東大会 ベスト4 |
| 上村 亮平 | FCスホルト宇都宮 監督
第26回全国クラブチームサッカー選手権大会 関東予選 第3位 |
| 上野 哲 | 小山工業高等専門学校サッカー部 監督
第54回全国高等専門学校体育大会 兼 第52回全国高等専門学校サッカー選手権大会 第3位 |
| 高橋 健二 | 矢板中央高等学校サッカー部 監督
第98回全国高校サッカー選手権大会 第3位 |
| 齋藤 信也 | S4スベランツァ 監督
JFAバーモントカップ第29回全日本U-12フットサル選手権大会 ベスト8 |

3. 2019年度 (第37回) 協会長賞受賞者

【団体】

- | | |
|-----------------|--|
| 栃木シティフットボールクラブ | 第58回関東サッカーリーグ1部 第3位 |
| 栃木シティフットサルクラブ | JFA第25回全日本フットサル選手権大会 関東大会 ベスト4 |
| FCスホルト宇都宮 | 第26回全国クラブチームサッカー選手権大会 関東予選 第3位 |
| 小山工業高等専門学校サッカー部 | 第54回全国高等専門学校体育大会 兼 第52回全国高等専門学校サッカー選手権大会 第3位 |
| 矢板中央高等学校サッカー部 | 第98回全国高校サッカー選手権大会 第3位 |
| S4スベランツァ | JFAバーモントカップ第29回全日本U-12フットサル選手権大会 ベスト8 |
| 栃木県立真岡高等学校サッカー部 | 全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2019 IBARAKI ベスト8 |

【個人】

- | | |
|-----------|---|
| 星 剛 | 永年にわたり栃木県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |
| 井上 知佐子 | 永年にわたり栃木県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |
| 根 誠一 | 永年にわたり栃木県サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |
| (故) 森 泰久 | 永年にわたり大田原市サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |
| (故) 松井 洋三 | 永年にわたり矢板市並びに塩谷町サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |
| 野 洋三 | 永年にわたり矢板市並びに塩谷地区サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |
| 石 敏光 | 永年にわたり氏家町・さくら市並びに塩谷地区サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |
| 大村 勝範 | 永年にわたり喜連川町・さくら市並びに塩谷地区サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。 |

4. 2019年度 特別功労賞

【個人】

- | | |
|------|---|
| 小林 功 | 永年にわたり佐野市サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献されるとともに、佐野日本大学高等学校サッカー部の監督として優秀なチームを育成し本県サッカー競技の振興に尽力された。 |
|------|---|

ミッションファイル

公益社団法人 栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人 栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標 (TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 <2018年度>
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13~18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	サッカー選手登録 15,954人 フットサル登録 484人 審判員 5,636人 指導者 2,353人 計 25,177人 県民人口 1,943,946人 県民の 1.29%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として40名以上活躍する。また、「 <u>国際審判員</u> 」として2名、「 <u>1級審判員</u> 」として10名以上活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成 4. 審判員の育成	日本代表 0人 女子日本代表 0人 Jリーガー 33人 国際審判員 0人 1級審判員 7人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	全国ランキング 第36位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の <u>人工芝サッカー場が25面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 5面 ・矢板市 3面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 3面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 ・真岡市 2面 ・さくら市 1面 ・足利市 1面 ・栃木市 1面 計 22面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2020年度の
TFA活動目標

- (1)アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2)サッカーファミリーの拡大(グラスルーツの普及促進)
 <プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す>
- (3)各種別の本県代表チームの活躍<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4)鹿児島国体でベスト4以上を目指す
- (5)J2栃木SC・関東リーグ 栃木シティFCとの連携・協力体制の確立
- (6)サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7)県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8)2022年栃木国体「総合優勝」に向けた5か年行動計画の推進
- (9)TFA創立75周年記念事業の実施
 ・記念誌の作成(9月発刊予定)
 ・記念試合の実施(6月開催予定)
- (10)財政の健全化<新たな収入源の確保>

2019年度 アクションプラン

1. 第1種委員会：社会人連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・県内リーグチーム強化 ・各種大会の運営力の向上。 ・栃木国体に向け鹿児島国体へ出場する。 ・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・トーナメント大会参加チーム数を継続する取り組み ・新規チーム数を増やすための取り組み ・登録チーム内のC級・B級指導者を増やす取り組み ・登録チーム内の3級審判員を増やす取り組み
	<数値目標> 鹿児島国体で成年男子チームがベスト8になる。 登録チーム内の指導者・3級審判員を1名以上増やす
	<スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内大会の活性化(3部決勝大会参加チーム数の見直し) ・全国大会の運営 ・Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・MC資格保有役員はマッチコミッショナーを2試合以上担当する。 ・県協会・他種別と共同で事業を実施し新規・継続選手数を増やす。 ・トーナメント大会参加数継続のためのサポート活動 ・県内上位リーグから指導者・3級審判員を増やす活動を開始する。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・全国地域サッカーチャンピオンズリーグ1次ラウンド ・全国社会人サッカー選手権大会関東予選 ・国大関東ブロック大会・本大会 ・県内トーナメント大会・リーグ戦 ・J2・関東リーグチームとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校サッカーの活性化(男女) ・高校サッカー部員の増加(男女) ・本県代表校の活躍(男女) ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
	<数値目標> 部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝
	<スローガン> サッカー環境の整備(気持ちよくサッカーができるように)

2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実 ・関東高校サッカー大会 ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・審判員の充実 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18のよりよい運営 ・本県代表の関東・全国大会入賞 ・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・審判研修会及び講習会の開催 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ユース審判員の育成及び活用

3. 第3種委員会：中学連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①U-15リーグに90%以上のチームの参加 ②公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③M4による指導者講習会への参加率85%以上 ④マッチコミッショナー・ウエルフェアオフィサーの10名以上の養成 <p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・3種委員会の組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ (1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ) ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会 ・マッチコミッショナー・ウエルフェアオフィサー養成講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2020年度の活動目標	<p>【競技】①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行</p> <p>【地域】①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加</p> <p>【技術】①関東・全国レベルで通用する選手の育成 ②地区トレセン指導者の育成とレベルアップのための研修会の開催 ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携</p> <p>【審判】①審判研修会の充実 ②審判インストラクターのスキルアップ研修の実施 ③他種別との連携</p> <p>【記録広報】①正確な情報を迅速に提供</p> <p>【女子】①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと</p> <p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4以上 ナショナルトレセン10名選出</p> <p>【審判】 3級審判員10名以上の増員(昇級)</p>
-------------	---

<p>2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<p><スローガン> 【技術】 <i>日常を変えよう</i> 【審判】 <i>基本に忠実に</i> 【記録広報】 <i>正確に・迅速に・効率よく</i></p> <p>【競技】 ①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】 ①トップリーク・地域リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会（県大会会場確保） イ 技術強化委員会（県トレセン） ウ 審判委員会（4級更新講習会） エ 広報委員会（地区及び県大会結果の報告） オ 女子委員会（県トレセンへの推薦）</p> <p>【技術】 ①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセンとの合同開催や指導協力 ③指導者の質の向上 ・指導者研修会の設定 ・県技術委員のB級取得促進</p> <p>【審判】 ①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>【記録広報】 ①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報共有の効率化</p> <p>【女子】 ①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>【競技】 ①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】 ①地域委員会の定期的開催（年12回開催） ②トップリーク・地域リーグ・地区予選会の運営 ③各種県大会の運営協力 ④地区の優秀な選手の発掘 ⑤他の委員会への協力 ⑥地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】 ①県トレセンと地区トレセンの合同開催 ②ナショナルトレセン研修会への参加促進 ③関東女子トレセンマッチデー、MTMトレセンマッチ、ナショナルトレセン選考会、ナショナルトレセン、キャノンガールズエイト、関東選抜大会</p> <p>【審判】 ①各地区との連携を密にし、審判研修会を計画的に実施する。 ・実技指導者研修会（各地区審判アドバイザー） ・実3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者） ・インストラクター研修会（3級インストラクター） ・3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者） ②上記の各種研修会の中で、3級審判インストラクターによる指導の場を設ける。 ③他種別と連携し、積極的に審判員を派遣する。 ・県社会人リーグなど（1種） ・高校サッカー選手権大会（2種） ・下野杯（3種）</p>

5. 女子委員会：女子連盟

<p>2020年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン制度の充実・強化 ・競技人口の拡大 ・指導者の育成 ・女性審判、ユース審判の育成 3級新規審判員の発掘 ・JFA普及コーディネーターの活用 ・ゲーム環境の整備
--------------------	---

	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技人口100名増 ・女性指導者D・C級30名増 ・女性審判50名増（内ユース審判45名） ・なでしこひろば開催団体5団体増
	<p><スローガン> 女子サッカーを身近なスポーツに！！</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15、U-18トレセン活動の充実・強化 ・国体少年女子選抜チーム（2022年）を見据えた取り組み ・ターゲット年代の強化策 ・国体成年女子選抜チームとの連携 ・普及事業 ・グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。（例：JFAなでしこひろばの活用） ・審判トレセンの充実と底辺拡大 ・県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大 ・新規MCの発掘 審判インストラクターの発掘
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン女子U-15/U-18 ・U-12女子トレセンとの連携 ・グラスルーツ ・ガールズ・レディースフェスティバル ・審判トレセン/U-15県リーグ

6. クラブユース連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上 ・全国大会（クラブ選手権・高円宮杯）への出場
	<p><数値目標></p> <p>関東大会でのベスト8以上 全国大会への出場</p>
	<p><スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ <i>（高めあい・競い合い・認め合う）</i></p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 ・栃木国体に向けて、U-14・13の強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ・U-13リーグ（関東・県） ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化（各年代） ・未登録チーム・選手の協会登録強化（各年代） ・関東大会の大会運営 ・全国大会予選会の突破
	<p><数値目標></p> <p>各年代（O-40・O-50・O-60・O-70）の全国大会出場</p>
	<p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・JFA第8回全日本O-40サッカー大会関東予選の開催のための大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（O-40、O-50、O-60）5月・8月9月 ・シニアサッカーリーグ（O-40、O-50、O-60）4月～3月 ・JFA第8回全日本O-40サッカー大会関東予選の開催 7月

8. 技術強化委員会

<p>2020年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2022栃木国体+10年を視野に入れた諸事業の実施 ・トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・栃木TSG(テクニカルスタディグループ) データ活用 <p><数値目標> 関東トレセン大会各種別Aクラス入り</p> <p><スローガン> 全県一致</p>
<p>2020度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国体強化策の具現化 成年男子：2022国体チームの決定。 選抜チームか、単独チーム化の決定。それに伴う監督・スタッフ体制の決定。 女子：成年選抜チームの発足、栃木SCとの連携 隔年強化の具体策の作成。 少年選抜チーム作りに向けての具体的アクション 2022年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 少年男子：U-15早生まれ及びU-14県トレセンの強化 2022年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 ・トレセン改革 県トレセンの行い方の見直しと実践（より充実したものにするために） ・各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 県内B級コースの解説 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 県内TSGレポートの作成。予算化。 ・各種連盟や委員会との連携、そのための技術委員会組織の再編。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・U-14トレセン海外遠征 2022年ターゲット年代によるスペイン遠征。 ・U-14・13県トレセン強化策 ・地区トレセンの強化＝県内指導者の育成（情報の共有） カテゴリーを超えた連携

9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2020年度の活動目標</p>	<p>U-18、U-15年代の指導者がフットサルの重要性を認識してくれていることは感じられるが、この年代の選手はサッカー登録している選手がほとんどでサッカー競技の試合日程とフットサルの大会日程が重複しているために、関心を持ちながらも参加できない状況があることは残念である。この年代の委員長やサッカーの指導者との交流を深め、フットサルとサッカーの在り方等を協議していき、日程の調整など良い方向にもっていくことが重要となる。それが、本県のフットサルの普及にはつながるのではないかと考える。</p> <p>さらにフットサルの普及・振興のために、フットサルイベントを企画してフットサル未経験者や多くの方にフットサルに触れる機会を増やすための広報・普及活動も急務である。また、若い年代の技術の向上や試合の経験値をあげるためにクリニックの計画的実施し、若手の指導者の育成など、中長期的な課題として今後の本県フットサルをより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、フットサル委員会・連盟事業の多岐にわたるようになってきていることから、連盟を組織の充実を図る時期にようになってきている。</p> <p>大会会場が体育館で、他団体との競合で施設の確保が困難であるが選手に良い環境でプレーしてもらいたいため、会場の確保に努力とともに県協会に働きかけをして、協会の持つ体育館設置への働きかけをしていきたい。</p> <p><数値目標> 男女の登録選手数500名を目標に増加させる</p> <p><スローガン> 栃木のフットサルの振興と競技力の向上</p>
<p>2020度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグの充実 ②各年代におけるフットサル大会の運営と選手の発掘 ③U-23年代以下の育成・強化 ④普及事業の情報の発信の工夫と促進成と組織の充実

	<ul style="list-style-type: none"> ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 ⑧各種普及イベントの充実 ファミリーフットサル オープンフットサル大会

10. 審判委員会

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ①国体に向け、審判員の増員、レベルアップを図る。また、実働の審判員だけでなく、インストラクターを中心に大会を運営できるスタッフの育成を目指す。 ②審判トレセンは毎月1回第3日曜日に固定し実施する。講義形式だけでなく、フットボールセンターを利用して、実技研修（プラクティカルトレーニング）を実施する。その場を3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用し、指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。 ③強化審判研修会を2つのチーム（1級、その他2級上位）に分けて、それぞれに必要な知識・技能を効果的に供給・提示していく。 ⑤インストラクタートレセンにインストラクターを参加させサポートする。上級の指導者を育成する。 ⑥大学生向けの講習会を実施し、即戦力の審判員育成を図り始めた。今後も継続する。 ⑦シニア、フットサルにおいても限られた人材・予算であるが、改善を目指し、各大会・講習会をスムーズに運営する。 ⑧ユース審判員の育成を図る。 ⑨割当については、関東の動向を見ながら、何よりも審判員に有益な方法を見いだす。 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①審判員登録数を1級：7名、2級：70名（関東で実働40名）、3級：500名（2級受検候補5名）、女子2級：4名 3級：6名 ②4級：4500名、フットサル：600名、女子審判員：180名を目標に育成する。（中期、長期） <p><スローガン> <i>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM</i>（審判仲間の夢への挑戦）</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<p>（1種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①3級審判員の拡大 県社会人リーグ参加チームから3級審判員を育成し、チーム登録審判員に3級審判員の登録拡大を図る。 ②3級審判員研修会の実施 3級審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。 ③種別との連携 他種別との連携により、1種大会の審判員を増やすとともに、他種別を経験することで審判としての幅を広げる。 <p>（2種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①4級ユース審判員の更新の定着を図る。 ②ユース審判員の育成を充実させる。 ③若手顧問の指導・育成を図る。 <p>（3種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①審判研修会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ・地区別研修会（年1回以上）の実施（計画・報告書の提出） ・インストラクターの活用 ②若手審判員の発掘と育成 <ul style="list-style-type: none"> ・多種別との交流を図る。 ・上級審判員の拡大（2級審判員・3級審判員の増員）

	<p>① 3級インストラクターの増員 (4種)</p> <p>①講義形式と実技形式の研修会を実施し、3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。 (女子)</p> <p>①2級審判員1名、3級審判員3名の増員を図る。 ②ユース向け女子審判トレセン年2回実施。 ③3級審判向け競技規則研修会の実施。 ④チーム帯同審判員の実技研修会の実施。 ⑤公式戦決勝を女子審判員4名で実施。 (シニア)</p> <p>①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。そのうち、1名以上3級以上の審判員を確保する。 ②シニアの各カテゴリー(0-40から0-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。 (クラブ)</p> <p>①2級を目指せる3級審判員を発掘し、指導育成する。 ②3級を目指す4級審判員を発掘し、指導育成する。 ③チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。 ④体制強化と若返りを図る。 (フットサル)</p> <p>①実働審判員の確保 ②フットサル審判員の能力向上 ③上級審判員候補の発掘 (指導・育成・インストラクター)</p> <p>①新アセスメントレポート様式によるアセスメントへの移行。 ②各インストラクター年間最低3試合以上アセッサー任務の義務化。 ③審判員への継続的な指導を考慮したアセッサー割当ての実施 ④インストラクター個々のスキルレベルアップ。 (割当部)</p> <p>①kick offサイトの有効利用 インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。 JFA、関東協会のようにkick offシステムを試験的に導入、試みる。</p> <p>②各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。 また派遣審判員を対象とした研修会を開催し一体感をもって底上げする。</p> <p>③在野の審判員の発掘 級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。 ここで指導育成した審判員を各種別で活躍できるような仕組みを作る。(4級、3級のスキルアップ) 県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <p>①1種大会(NEZASカップ1次予選、クラブ杯、県リーグ、知事杯等)やトレーニングマッチを使用した実技指導を実施する。 ②派遣審判員を対象にした1種主催の研修会・体力確認会を開催する。 ③3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。 (2種)</p> <p>①ユース審判員 ・ユース審判員の環境整備を行う。(ユースリーグ参加チーム内に有資格ユース審判員2名がいることの厳格化) ・4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし更新不備とならないような情報を提供する。</p> <p>②顧問 ・若手顧問を第2種の試合において積極的に割当てて指導する。 ・若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。 (3種)</p> <p>①研修会の充実 ・10月-中学校県新人大会最終日</p>

- ・12月ー下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合
- ・3月ー東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力
(多種別との交流を含めて)
- ・年1回以上の地区別研修会の実施(インストラクター派遣)
(競技規則に関する研修会の実施)
- ②審判員の発掘と育成
 - ・多種別の審判員との交流を推進する。
(3種→2種・1種へ) (4種→3種へ)
 - ・地区担当者との連携強化**(定期的な会議の実施)**
(4種)
- ①各地区との連携を密にし、審判研修会を計画的に実施する。
 - ・実技指導者研修会(各地区審判アドバイザー)
 - ・3級審判員研修会(3級審判員のうち希望者)
 - ・インストラクター研修会(3級インストラクター)
 - ・3級昇格に向けた研修会(3級昇格希望者)
- ②上記の各種研修会の中で、3級審判インストラクターによる指導の場を設ける。
- ③他種別と連携し、積極的に審判員を派遣する。
 - ・県社会人リーグなど(1種)
 - ・高校サッカー選手権大会(2種)
 - ・下野杯(3種)
- (女子)
- ①JFA女子トレセンの活用。
- ②1月帯同審判員講習会5月ユース審判員講習会11月ユース審判員講習会県リーグ時
毎回実施訓練研修会3級取得者向けルール講習会
- ③女子公式戦決勝4名女子で実施
(シニア)
- ①審判の取得・更新
 - ・通知等で啓発
- ②研修会の充実
 - ・委員会、リーグ戦、選手権大会、本県開催の関東大会
(クラブ)
- ①2級・3級を目指す審判員の発掘し、指導育成する。
 - ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
 - ・栃木県U15・13リーグ
 - ・高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
 - ・3種リーグチャンピオンシップ
 - ・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会
- ②チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。
 - ・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会最終日
- ③体制強化と若返りを図る。
 - ・新たな人材の加入と体制の見直し
(フットサル)
- ①各種(県・地区大会)大会帯同審判員へのアプローチ
各種大会帯同審判員への技術指導
審判活動希望者募集の為の広報活動
(県協会HPへの掲載等)
- ②県リーグ担当審判員の主審技量の向上
担当審判員研修会、他県リーグ・審判交流等を通じての競技知識の向上
各種大会におけるインストラクターによる実技指導
- ③F3昇級の為の育成コースの開設
F2昇級候補者の育成
(指導・育成・インストラクター)
- ①新様式アセスメントの導入のためのレベル合わせ研修会を複数回実施。
- ②各インストラクター最低3試合以上のアセスメント実施を義務化する。各種別及び各部と随時情報交換を行い、審判員育成指導の連携を図る。
- ③競技部、各種別及び各部と連携を図り、アセッサーの早期割当てに努め、強化対象審判員の継続的指導を実施する。
- ④審判トレセンへ、インストラクタートレセン及び審判研修会時アセッサーへの積極的な参加促進。受講の義務化等資格要件制度の検討。

11. グラスルーツ委員会

<p>2020年度の活動目標</p>	<p>〈全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー未経験者のキッズ事業への参加者数の増加 ・キッズ事業に関わる大人の増加 <p>〈巡回指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携（キッズ委員会以外からのアプローチも模索） ・指導先の拡大と受益者負担への働きかけ ・TOYATAとの協働による指導内容の充実 ・巡回指導スタッフの発掘 <p>〈フェスティバル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区フェスティバルの内容の充実（チームをバラバラにしたり親子サッカー等） ・JFAフェスティバルを含むフェスティバルの回数増加 ・他種別（特に4種と技術委員会）との連携での開催 ・サッカー未経験者の参加増大（未経験者が来て初めて普及） <p>〈キッズリーダー講習会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大・専門学校等、教育者育成機関での開催 ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催 <p>〈数値目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち延べ23,000人との交流 ・サッカー未経験者延べ500人の参加 ・キッズリーダー講習会の開催（15コース、300名） ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催（2回） <p>〈スローガン〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズから栃木のサッカーを変えていこう ・栃木をキッズ王国に
<p>2020度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導 400回（幼稚園・保育園95園、小学校40校） ・JFAフェスティバル、および各地区フェスティバルでの未経験者の参加へのアプローチと参加者の増加（目標500名） ・各地区フェスティバルのサポート（年2回以上の開催を目指す） ・フェスティバルの内容の充実（チームの対抗戦だけにしない、研修会を兼ねる、グラスルーツ方式）と、関われる大人を増やす ・ユニクロキッズフェスティバルの開催に向けた準備 ・他種別との交流事業の充実
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JFAキッズサッカーフェスティバル ・JFAグラスルーツフェスティバル ・ユニクロキッズフェスティバル ・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・キッズリーダー養成講習会 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・栃木SC・栃木シティ・ヴェルフェ矢板等の巡回指導 ・キッズ研修会

山野井暉氏（元副会長）・瑞宝小綬章

昨年の秋の叙勲で、元副会長の山野井暉氏が瑞宝小綬章を受章されました。山野井元副会長の叙勲受賞をお祝いし、協会関係者による祝賀会が1月18日にホテルニューイタヤで開催されました。

山野井元副会長は、1958年に県立高校の体育教諭となり、以来本県の教育分野において、新たな教員向け研修制度の立ち上げをはじめ、教員の指導力向上などの施策に携わり、県教育研修センター部長、小山南高と宇都宮東高で校長を歴任するなど37年間教育と向き合ってきました。

本県のスポーツ、サッカー分野においては、県高体連会長として本県開催の全国高校総体を主導、また県内初となる日本サッカー協会1級審判員の

資格を取得、栃の葉国体での運営などに携わり、退職後は県サッカー協会副会長としての役職のほか、栃木SCの立ち上げとともに代表として尽力されました。



栃木SC

栃木SC・2020シーズンに向けて

栃木SC監督 田坂和昭

まず初めに、2019シーズンも皆様に熱いご声援を頂きまして誠にありがとうございました。最終節でなんとか残留を決めることができましたのも、日頃より支えていただいている皆様のお力添えがあってこそだと思います。改めて感謝申し上げます。

2020シーズンは、“全員で走り抜くこと”“栃木の為に走ること”そういった気持ちで、新しく加入した選手と昨年に引き続き栃木に残った選手が同じ意識をもってシーズンをスタートしました。我々はひたむきに走りながら全員でボールを奪いに行く。普段“群れを成す”という言い方をしていますが、群れを成して全員でボールを奪いに行き、奪い取ったならば、最短距離・最小時間・最小のパスでゴールを奪いに行くところを考えて、『ストーミング』という名で呼んでいます。もちろん全てがうまくいくこともないかもしれませんが、今シーズンはストーミングをやるという全員の共通意識の中で戦っていきます。

今シーズンも簡単なリーグではないと思いますが、プロフェッショナルという立場でありますので、やり続けること、突き詰めることはシーズンのスタートから最後まで全員で同じ意識でやっていきたいと思っています。昨シーズンの終盤戦の戦いに一段、二段、上澄みをしたサッカーができるように、今年も選手、スタッフ、フロントスタッフ、全員で戦っていきます。皆さんにも同じ栃木県のサッカーファミリーとして応援していただけましたら嬉しいですし、子どもたちが我々プロの選手に憧れをもって努力してくれたり、そういったところで指導者の皆さまにとってもプラスの材料を与えられるような



存在になればと思っております。同じ県内で活動を行っているサッカーファミリーの皆さんと共に、栃木県のサッカーを発展させるために頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

社会人連盟

社会人連盟活動について
「第53回関東社会人サッカー大会」

社会人サッカー連盟理事長 鈴木 篤

日頃から社会人連盟の活動に、深い御理解と御支援、御協力を頂き感謝申し上げます。

昨年11月2日(土)・3日(日)・16日(土)17日(日)、本県にて「第53回関東社会人サッカー大会」が開催されました。この大会は各都県1部リーグ上位の代表のトップチーム16チームが出場します。上位2チームにはJFLと関東リーグ1部・2部の結果により無条件または入れ替え戦により、翌年度の関東リーグ2部に昇格するための権利が与えられる為とても注目度が高い大会となっております。関東8都県での持ち回り開催となるので本県開催は8年ぶりのこととなります。

本県からはFC CASA FORTUNA OYAMA(県1位)、JBUS宇都宮サッカークラブ(県2位)、宇都宮フットボールクラブ(県3位・開催地枠)の3チームが参加し熱戦を繰り広げました。FC CASA FORTUNA OYAMAは1回戦のアヴェントゥーラ川口(埼玉2位)に勝利するも2回戦でCE RVEZA FC東京(東京2位)に敗れ昇格はなりませんでした。JBUS宇都宮サッカークラブ、宇都宮フットボールクラブはともに1回戦敗退と悔しい結果となってしまいました。大会後に行われた入れ替え戦を含めた結果、ザスパ草津チャレンジャーズ(群馬1位)とVONDS市原ヴェル(千葉1位)が関東2部へ昇格しました。

栃木県社会人連盟は主催団体として、また2020年の「いちご一会とちぎ国体」を見据えた運営を目指し大会を迎えました。会場となった栃木県総合運動公園サッカー場、とちぎフットボールセンター、ヴェルフエドリームフィールド、さくらスタジアムでは事前視察を行い必要な用具の確認と施設との打ち合わせを重ね、チーム控室などのテントの手配・設置や会場内の配置をしました。大会初日は4会場で行うため役員が分散されたこともありスムーズな運営ができたとは言え、関東社会人連盟の役員や県1部リーグから派遣され

た役員、高校生の補助員の皆様の協力で何とか乗り切った印象です。2日目以降は前日の反省を基にスケジュールや役員・会場の配置を修正し運営を行いました。大会後半は日程が2週間の空きがあったので役員で課題の洗い出しと修正の打ち合わせ・準備をして準決勝戦・決勝戦の運営をしました。大きなトラブルもなく大会を終了することができ関係者の皆様に感謝申し上げます。

また、本大会のトピックスとして株式会社トチナン様(小山市)の御協力の下に全試合のダイジェストをネット配信いたしました。本県としては初の取り組みとなりましたが各参加チームもSNS等で紹介していただき大会を大いに盛り上げてくれました。2020年11月まで視聴できますので是非ご覧ください。

株式会社トチナン様にあらためてお礼申し上げます。



※視聴URL <https://kansya.soccer/>

社会人連盟は新年度も『めざすは、“フェアプレー”社会人サッカー』の理念を掲げ活動をしてまいります。一種カテゴリーで活動される皆様のご活躍、栃木県のサッカーのさらなる飛躍を期待いたします。

終わりに、登録チームの皆様・施設関係者・審判員・運営関係者・サポーターの皆様ならびに社会人サッカーの発展を支えてくださった諸先輩方にあらためて感謝申し上げます。



第53回（2019年）関東社会人サッカー大会組合せ

試合会場	A: さくらスタジアム B: 栃木県総合運動公園サッカー場B C: 栃木県総合運動公園サッカー場C D: とちぎフットボールセンター E: ヴェルフエドリームフィールド
------	--

			11月2日	11月3日	11月16日	11月17日
1	FC CASA FORTUNA OYAMA	栃木県(1位)		11:00 B 【1】	1	
2	アヴェントゥーラ川口	埼玉県(2位)		0	11:00 B 【9】	1
3	鹿島さわやかFC	茨城県	11:00 D 【2】	0	2	
4	CERVEZA FC東京	東京都(2位)		3		
5	VONDS市原ヴェル	千葉県	11:00 C 【3】	3	11:00 A 【13】	1
6	ACアルマレッザ入間	埼玉県(3位)		1	2	2
7	YOKOHAMA FIFTY CLUB	神奈川県(1位)		0	11:00 C 【10】	0
8	駒澤大学 GIOCO世田谷	東京都(3位)	11:00 E 【4】	2		
9	エリース東京FC	東京都(1位)		7		11:00 A 【15】
10	宇都宮フットボールクラブ	開催地(栃木県)	13:30 B 【5】	1	13:30 B 【11】	PK6-5
11	Tokyo International University	埼玉県(1位)		2	1	
12	品川CC横浜	神奈川県(2位)	13:30 D 【6】	3		
13	ザスパ草津チャレンジャーズ	群馬県	13:30 C 【7】	2	13:30 A 【14】	0
14	大成シティフットボールクラブ坂戸	埼玉県(4位)		0	3	5
15	山梨学院大学ペガサス	山梨県		2	13:30 C 【12】	2
16	JBUS宇都宮サッカークラブ	栃木県(2位)	13:30 E 【8】	1		

ザスパ草津チャレンジャーズ
延長0
0
1
0

2020シーズンに向けて

栃木シティフットボールクラブ 若林 学

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市及び栃木県南地域のみなさまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昨シーズンも力及ばず、2年連続で悔しい思いをしました。今シーズンは目標の「JFL昇格（復帰）」を達成するため、今まで以上に結果に拘らなければならない年になります。

新監督に中村敦、選手兼GKコーチとしてシュナイダー潤之助、ストロングスコーチに関村宣昭と、Jリーグでも指導経験のあるスタッフを招き入れ、選手も13名の新加入選手がシティの目標達成の為に集まってくれました。

今シーズンのスローガンも『本気力（マヂカラ）』。栃木シティフットボールクラブになって2年目のシーズンになります。目標達成は決して簡単ではないですが、Jを目指すチームにとってクリアしなければならない課題です。1月中旬からチームは始動しています。走り込みからボールトレーニングまで、4月5日（日）の開幕に向けた準備は着々と進んでいます。

専用の練習場（LUXPERIOR FOOTBALL PARK）、そして、サッカー専用スタジアムとハード面も整いつつあります。あとは結果を出すだけです。この2年間で積んだ経験を今シーズン活かし、必ず昇格を勝ち取りたいと思います。是非、会場に来ていただき、応援していただけたらと思います。

それと同時に、認知度もまだまだ高くないクラブです。知ってもらい、応援してもらい、支えてもらえるようなクラブを目指していきます。その為には、これまで以上に地域貢献活動の回数を増やし、栃木シティ主催イベントの開催、地域イベントへの参加や施設への訪問、サッカー教室だけでなく、キャラバンや「夢の教室」で幼稚園や小中学校を訪問するなど、地域の方々とのふれあいの機会を増やしていきたいと思っています。地域との絆を強固にしながら、サッカーを通して栃木県南地域の活性化に取り組んでいきます。

最後になりましたが、栃木シティフットボールクラブはこれまでと変わらず皆様に『夢・希望・感動』を与え続けられるようなサッカーを目指して参ります。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。



高校連盟

高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長（男子）
臼井 紀仁

高校サッカー選手権栃木大会

プリンスリーグ関東に所属する矢板中央、全国高校総体ベスト8進出校と県ユースリーグ1部所属チームの計10校と、一次予選を勝ち抜いた14校を合わせた24校によって、10月12日に開幕予定だった選手権大会ですが、台風19号の影響により、10月26日の1回戦開幕となりました。1回戦から決勝戦まで15日間という短期間での開催となり、選手をはじめ、多くの関係者にご迷惑をお掛けすることとなってしまいましたが、延期後は何とか予定通り決勝戦まで実施することができました。

第1シードの矢板中央は毎試合失点しながらも手堅く勝ち上がり、準決勝戦で宇短大附属と対戦しました。前半に先制を許し、苦しい展開が続きましたが、終盤に見事逆転しました。決勝戦に進出したもう1校は、1回戦から登場し、準々決勝で全国総体予選準優勝の真岡、準決勝戦では栃木を下した佐野日大となりました。3年連続で同じ対戦カードとなった決勝戦では、佐野日大が先制するも、矢板中央が得意のロングスローから後半に同点に追いつく展開となりました。延長戦でも決着がつかず、PK方式までもつれた熱戦は、矢板中央の3年連続10回目の優勝で幕を閉じました。

全国高校サッカー選手権大会

98回を数える全国選手権に出場した矢板中央は、1回戦の大分（大分県）、2回戦の大手前高松（香川県）、3回戦の鵬学園（石川県）と、いずれも接戦となりましたが、本県代表の4年連続ベスト8進出を果たしました。準々決勝では四日市中央工業（三重県）に完封勝利し、矢板中央3度目のベスト4進

第98回全国高等学校サッカー選手権大会栃木大会 結果

令和元年10月26・29日 11月2・4・9日

出となりました。埼玉スタジアム2002で行われた準決勝戦では、優勝した静岡学園(静岡県)と対戦。後半終了間際まで全員の高い守備意識で耐え続けましたが、アディショナルタイムにPKをとられてしまい、惜しくも0-1で敗れました。粘り強く全員が体を張ってプレーする姿は、多くの人々に感動を与えてくれました。

プリンスリーグ関東・ユースリーグ栃木

昨年度はプリンスリーグ関東で圧倒的な力を示して優勝した矢板中央ですが、今年度は序盤から苦しい戦いが続き、最下位でのリーグ終了となってしまいました。上位チームがプレミアリーグ進出を決めたことで、プリンスリーグからの降格は免れましたが、次年度は、全国トップレベルのチームが揃うプリンスリーグ関東で上位となり、さらに上のプレミアリーグ参入を目指して欲しいと思います。

県内のユースリーグ栃木では、栃木SCが1部リーグで優勝し、プリンスリーグ関東参入戦に臨みましたが、千葉県代表のジェフ千葉に敗れ、今回も残念ながら参入を逃しました。

ほぼ全ての高校とクラブチームが参加し、複数チームでの参加も定着してきたユースリーグですが、日程のバランスや運営面の負担など、選手・指導者にとっての課題も残されています。次年度以降、さらに改善しながら取り組んでいきたいと考えています。

高校サッカー新人大会

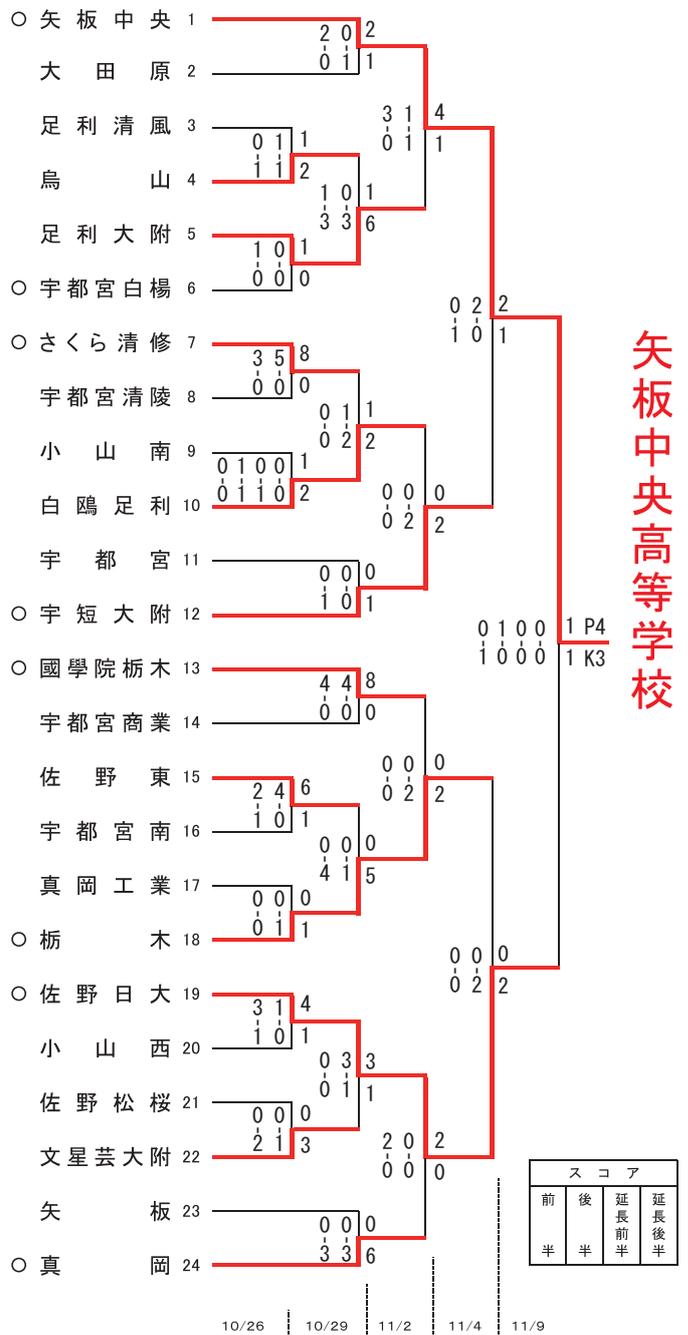
暖冬の影響もあり、例年心配されている雪の影響も全くなく、予定通りの日程で開催された新人大会でしたが、選手権栃木大会でも2年生主体のチームで躍進した栃木が、PK方式の末に全国選手権3位の矢板中央に勝利するという、波乱の大会となりました。決勝戦は、佐野日大がPK方式の末に勝利し、県内大会での久しぶりの優勝を飾りました。

おわりに

選手権大会での矢板中央の活躍が強く印象に残った1年でした。一方で、年間スケジュールの過密化、暑熱対策、悪天候(台風・豪雨等)対策、感染症対策など、選手たちの安全・安心を脅かす問題も多く存在しており、連盟として引き続き対策を検討しながら進めて行こうと考えています。

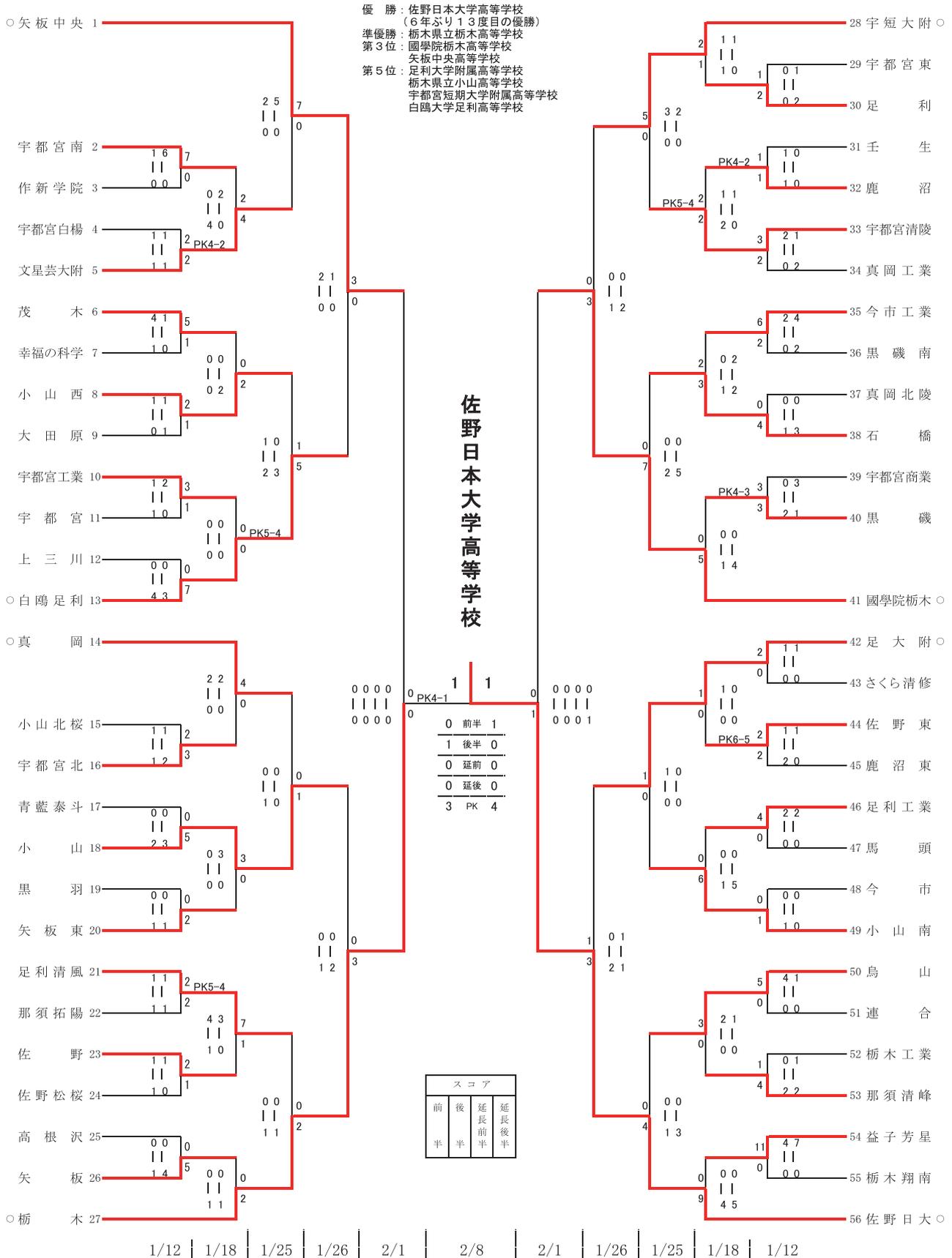
県内の指導者・関係者の皆様の御協力によって、今年度も各事業を無事終了することができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

優勝:	矢板中央高等学校 (3年連続10度目の優勝) (3年連続10度目の全国大会出場)
準優勝:	佐野日本大学高等学校
第3位:	宇都宮短期大学附属高等学校 栃木県立栃木高等学校
第5位:	足利大学附属高等学校 栃木県立真岡高等学校 國學院大學栃木高等学校 白鷗大学足利高等学校



令和元年度 栃木県高等学校サッカー新人大会 結果

令和2年 1月12・18・25・26日 2月1・8日



高円宮杯U-18サッカーリーグ2019

ユースリーグ栃木1部

	栃木SCユース	真岡	宇都宮白楊	佐野日大	宇短大附	栃木	矢板中央B	國學院栃木	足利大附	大田原	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
栃木SCユース		2 〇 1 1 〇 0	6 〇 0	2 〇 1	3 〇 1	2 〇 0	0 〇 0	7 〇 0	5 〇 0	7 〇 0	46	15	1	1	58	7	51	1
真岡	1 〇 2 0 〇 1		3 〇 1 0 〇 1	0 〇 1 0 〇 1	2 〇 1 2 〇 1	2 〇 0 0 〇 2	1 〇 0 2 〇 1	6 〇 0 4 〇 1	5 〇 0 2 〇 0	7 〇 0 7 〇 0	36	12	0	6	44	13	31	2
宇都宮白楊	0 〇 6 1 〇 2	1 〇 3 1 〇 0		1 〇 1 2 〇 1	1 〇 3 3 〇 0	1 〇 1 1 〇 0	0 〇 0 1 〇 0	3 〇 1 2 〇 1	4 〇 2 0 〇 1	4 〇 1 2 〇 0	33	10	3	5	30	24	6	3
佐野日大	1 〇 2 - -	1 〇 0 1 〇 0	1 〇 1 1 〇 2		3 〇 0 4 〇 0	1 〇 1 2 〇 2	3 〇 3 1 〇 2	2 〇 2 2 〇 2	2 〇 0 2 〇 0	3 〇 0 11 〇 0	30	8	6	3	41	17	24	4
宇短大附	1 〇 3 2 〇 1	1 〇 2 1 〇 2	3 〇 1 0 〇 1	0 〇 3 0 〇 4		1 〇 1 1 〇 4	1 〇 1 2 〇 1	2 〇 0 0 〇 2	3 〇 1 2 〇 1	3 〇 0 6 〇 2	26	8	2	8	29	30	-1	5
栃木	0 〇 2 0 〇 2	0 〇 2 2 〇 0	1 〇 1 0 〇 3	1 〇 1 2 〇 2	1 〇 1 4 〇 1		2 〇 2 0 〇 0	1 〇 1 1 〇 3	2 〇 0 1 〇 0	2 〇 0 2 〇 1	25	6	7	5	22	22	0	6
矢板中央B	0 〇 0 0 〇 1	0 〇 1 1 〇 2	0 〇 0 1 〇 3	3 〇 3 2 〇 1	1 〇 1 1 〇 2	2 〇 2 0 〇 0		3 〇 1 2 〇 3	5 〇 0 2 〇 0	3 〇 1 9 〇 1	24	6	6	6	35	22	13	7
國學院栃木	0 〇 7 1 〇 3	0 〇 6 1 〇 4	1 〇 3 1 〇 2	2 〇 2 2 〇 2	2 〇 0 2 〇 0	1 〇 1 3 〇 1	1 〇 3 3 〇 2		0 〇 0 4 〇 2	4 〇 0 3 〇 0	22	6	4	8	29	40	-11	8
足利大附	0 〇 5 0 〇 3	0 〇 5 0 〇 2	2 〇 4 1 〇 0	0 〇 2 0 〇 2	1 〇 3 1 〇 2	0 〇 2 0 〇 1	0 〇 5 0 〇 2	0 〇 0 2 〇 4		4 〇 3 3 〇 1	10	3	1	14	14	46	-32	9
大田原	0 〇 7 0 〇 11	0 〇 7 0 〇 7	0 〇 2 0 〇 2	0 〇 3 0 〇 11	2 〇 6 2 〇 6	1 〇 2 1 〇 2	1 〇 9 0 〇 3	0 〇 3 1 〇 3			0	0	0	18	10	91	-81	10

ユースリーグ栃木2部A

	栃木SCユースB	宇短大附B	矢板中央C	さくら清修	文星芸大附	小山西	矢板東	宇都宮工業	佐野松桜	黒磯南	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
栃木SCユースB		2 〇 0 1 〇 3	2 〇 3	0 〇 0	2 〇 1	6 〇 0	4 〇 1	2 〇 0	14 〇 2	8 〇 0	46	15	1	2	111	14	97	1
宇短大附B	0 〇 2 3 〇 1		5 〇 0 2 〇 2	0 〇 3 3 〇 1	1 〇 0 1 〇 2	2 〇 1 1 〇 1	4 〇 0 7 〇 1	1 〇 0 5 〇 1	3 〇 0 8 〇 0	10 〇 0 9 〇 1	41	13	2	3	65	16	49	2
矢板中央C	3 〇 2 0 〇 2	0 〇 5 2 〇 2		0 〇 5 4 〇 0	0 〇 0 2 〇 1	3 〇 0 2 〇 1	5 〇 0 7 〇 1	2 〇 1 6 〇 1	3 〇 1 6 〇 0	9 〇 0 10 〇 1	41	13	2	3	64	23	41	3
さくら清修	0 〇 0 1 〇 3	3 〇 0 1 〇 3	5 〇 0 0 〇 4		2 〇 1 1 〇 2	3 〇 1 2 〇 2	4 〇 0 7 〇 0	8 〇 0 1 〇 0	7 〇 0 7 〇 0	2 〇 0 10 〇 0	38	12	2	4	64	16	48	4
文星芸大附	1 〇 2 0 〇 2	0 〇 1 2 〇 1	0 〇 0 1 〇 2	1 〇 2 2 〇 1		0 〇 0 1 〇 0	0 〇 2 7 〇 0	3 〇 0 2 〇 0	12 〇 0 6 〇 0	10 〇 0 9 〇 0	32	10	2	6	57	13	44	5
小山西	0 〇 6 0 〇 8	1 〇 2 1 〇 1	0 〇 3 1 〇 2	1 〇 3 2 〇 2	0 〇 0 0 〇 1		2 〇 2 3 〇 1	1 〇 0 2 〇 0	3 〇 2 5 〇 0	5 〇 0 7 〇 0	25	7	4	7	34	33	1	6
矢板東	1 〇 4 1 〇 9	0 〇 4 1 〇 7	0 〇 5 1 〇 7	0 〇 4 0 〇 7	2 〇 0 0 〇 7	2 〇 2 1 〇 3		0 〇 0 1 〇 2	2 〇 0 7 〇 0	1 〇 0 5 〇 0	17	5	2	11	25	61	-36	7
宇都宮工業	0 〇 2 1 〇 10	0 〇 1 1 〇 5	1 〇 2 0 〇 6	0 〇 8 0 〇 1	0 〇 3 0 〇 2	0 〇 1 0 〇 2	0 〇 0 2 〇 1		6 〇 0 8 〇 0	5 〇 0 4 〇 1	16	5	1	12	29	45	-16	8
佐野松桜	2 〇 14 1 〇 7	0 〇 3 0 〇 8	1 〇 3 0 〇 6	0 〇 7 0 〇 7	0 〇 12 0 〇 6	2 〇 3 0 〇 5	0 〇 2 0 〇 7	0 〇 6 0 〇 8		5 〇 0 6 〇 2	6	2	0	16	17	106	-89	9
黒磯南	0 〇 8 0 〇 29	0 〇 10 1 〇 9	0 〇 9 0 〇 10	0 〇 2 0 〇 10	0 〇 10 0 〇 9	0 〇 5 0 〇 7	0 〇 1 0 〇 5	0 〇 5 1 〇 4	0 〇 5 2 〇 6		0	0	0	18	5	144	##	10

ユースリーグ栃木2部B

	白鷲足利	真岡B	佐野日大B	小山西	宇都宮白楊B	宇都宮	小山	烏山	益子芳星	栃木工業	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
白鷲足利		0 〇 0 1 〇 0	0 〇 0 1 〇 0	2 〇 1 2 〇 0	4 〇 0 1 〇 0	3 〇 2 3 〇 0	4 〇 1 3 〇 0	1 〇 0 3 〇 2	2 〇 0 10 〇 0	12 〇 0 7 〇 0	50	16	2	0	59	6	53	1
真岡B	0 〇 0 0 〇 1		2 〇 0 2 〇 1	1 〇 2 3 〇 2	2 〇 1 2 〇 1	3 〇 1 3 〇 0	0 〇 0 5 〇 1	3 〇 0 1 〇 0	5 〇 0 1 〇 0	3 〇 0 4 〇 0	44	14	2	2	40	10	30	2
佐野日大B	0 〇 0 0 〇 1	0 〇 2 1 〇 2		2 〇 1 - -	5 〇 0 3 〇 0	3 〇 1 5 〇 0	1 〇 1 1 〇 0	2 〇 0 1 〇 0	2 〇 0 4 〇 1	2 〇 0 5 〇 0	38	12	2	3	37	9	28	3
小山西	1 〇 2 0 〇 2	2 〇 1 2 〇 3	1 〇 2 - -		2 〇 0 1 〇 2	3 〇 0 4 〇 1	1 〇 0 2 〇 1	1 〇 1 4 〇 0	3 〇 1 6 〇 0	6 〇 0 6 〇 0	34	11	1	5	45	16	29	4
宇都宮白楊B	0 〇 4 0 〇 1	1 〇 2 1 〇 2	0 〇 5 0 〇 3	0 〇 2 2 〇 1		2 〇 0 3 〇 2	0 〇 0 1 〇 1	1 〇 2 1 〇 1	1 〇 1 6 〇 0	1 〇 0 3 〇 1	22	6	4	8	23	28	-5	5
宇都宮	2 〇 3 0 〇 3	1 〇 3 0 〇 3	1 〇 3 0 〇 5	0 〇 3 1 〇 4	0 〇 2 2 〇 3		3 〇 1 0 〇 2	5 〇 0 4 〇 2	2 〇 0 1 〇 0	4 〇 1 2 〇 1	21	7	0	11	28	39	-11	6
小山	1 〇 4 0 〇 3	0 〇 0 1 〇 5	1 〇 1 0 〇 1	0 〇 1 1 〇 2	0 〇 0 1 〇 1	1 〇 3 2 〇 0		2 〇 2 3 〇 2	4 〇 3 5 〇 0	1 〇 1 2 〇 2	19	4	7	7	25	31	-6	7
烏山	0 〇 1 2 〇 3	0 〇 3 0 〇 1	0 〇 2 0 〇 1	1 〇 1 1 〇 4	2 〇 1 1 〇 1	0 〇 5 2 〇 4	2 〇 2 2 〇 3		0 〇 0 1 〇 1	3 〇 1 7 〇 0	14	3	5	10	23	34	-11	8
益子芳星	0 〇 2 0 〇 10	0 〇 5 0 〇 1	0 〇 2 1 〇 4	1 〇 3 0 〇 6	1 〇 1 0 〇 6	0 〇 2 0 〇 1	3 〇 4 0 〇 5	0 〇 0 1 〇 1		1 〇 2 1 〇 0	6	1	3	14	9	55	-46	9
栃木工業	0 〇 12 0 〇 7	0 〇 3 0 〇 4	0 〇 2 0 〇 5	0 〇 6 0 〇 6	0 〇 1 1 〇 3	1 〇 4 1 〇 2	1 〇 1 2 〇 2	1 〇 3 0 〇 7	2 〇 1 0 〇 1		5	1	2	15	9	70	-61	10

ユースリーグ栃木3部a

	矢板中央D	さくら清修B	矢板	那須清峰	黒磯	大田原B	那須拓陽	高根沢	黒羽	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
矢板中央D		1△1 2○1	4○0 0●2	2○0 2○0	5○0 4○0	3○0 8○1	5○0 1○0	4○3 3○2	1○0 21○1	43	14	1	1	66	11	55	1
さくら清修B	1△1 1●2		2○0 0△0	0△0 4○0	4○0 3○1	1●3 0●1	2○0 2○1	5○0 1○0	10○0 16○0	33	10	3	3	52	9	43	2
矢板	0●4 2○0	0●2 0△0		1●3 2●3	1●3 3○0	2○0 2○1	1○0 1△1	1○0 1△1	3○1 16○0	27	8	3	5	36	19	17	3
那須清峰	0●2 0●2	0△0 0●4	3○1 3○2		3△3 2○0	0●2 4○2	5○1 9○1	2○0 1△1	1●3 7○0	27	8	3	5	40	24	16	4
黒磯	0●5 0●4	0●4 1●3	3○1 0●3	3△3 0●2		1●3 3○2	2○1 1○0	2○1 1○0	11○0 4○3	25	8	1	7	32	35	-3	5
大田原B	0●3 1●8	3○1 1○0	0●2 1●2	2○0 2●4	3○1 2●3		1△1 2●3	2○1 0●2	3○1 5○1	22	7	1	8	28	33	-5	6
那須拓陽	0●5 0●1	0●2 1●2	0●1 1△1	1●5 1●9	1●2 0●1	1△1 3○2		4○2 0●2	8○1 2○0	14	4	2	10	23	37	-14	7
高根沢	3●4 2●3	0●5 0●1	0●1 1△1	0●1 1△1	0●2 0●1	1●2 2○0	1●2 2○0	2●4	1●3 10○1	11	3	2	11	26	31	-5	8
黒羽	0●1 1●21	0●10 0●16	1●3 0●16	3○1 0●7	0●11 3●4	1●3 1●5	1●8 0●2	3○1 1●10		6	2	0	14	15	119	##	9

ユースリーグ栃木3部b

	宇都宮白楊C	宇都宮南	文星芸大附B	小山南C	宇都宮北	宇都宮東	真岡工業B	上三川	小山C	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
宇都宮白楊C		1○0 0△0	2○0 2●3	0●2 2○0	2○0 1○0	1△1 4○0	1○0 8○1	2○0 3○1	2○0 7○0	38	12	2	2	38	8	30	1
宇都宮南	0●1 0△0		0●1 1○0	2○0 2○0	0●1 1○0	2○1 0△0	1○0 3○0	3○1 9○0	3○0 2○0	35	11	2	3	29	5	24	2
文星芸大附B	0●2 3○2	1○0 0●1		2●3 3○0	1○0 0●1	0●3 4○1	2○0 4○0	7○3 6○1	4○0 5○0	33	11	0	5	42	17	25	3
小山南C	2○0 0●2	0●2 0●2	3○2 0●3		0●2 2○1	1●4 2○0	1○0 1○0	4○2 3○0	0△0 0△0	26	8	2	6	19	20	-1	4
宇都宮北	0●2 0●1	1○0 0●1	0●1 1○0	2○0 1●2		1○0 2○1	4○1 1●2	8○0 4○1	4○0 1●2	24	8	0	7	30	14	16	5
宇都宮東	1△1 0●4	1●2 0△0	3○0 1●4	4○1 0●2	0●1 1●2		4○0 1○0	0△0 4○3	3○1 5○0	24	7	3	6	28	21	7	6
真岡工業B	0●1 1●8	0●1 0●3	0●2 0●4	0●1 0●1	1●4 2○1	0●4 0●1		1○0 1●2	2○0 4○1	12	4	0	12	12	34	-22	7
上三川	0●2 1●3	1●3 0●9	3●7 1●6	2●4 0●3	0●8 1●4	0△0 3●4	0●1 2○1		4○1 6○0	10	3	1	11	24	56	-32	8
小山C	0●2 0●7	0●3 0●2	0●4 0●5	0△0 0△0	0●4 2○1	1●3 0●5	0●2 1●4	1●4 0●6		5	1	2	13	5	52	-47	9

ユースリーグ栃木3部c

	真岡D	真岡工業	宇都宮清陵	宇短大附D	今市	鹿沼	足利B	真岡北陵	栃木工業B	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
真岡D		2○1 1△1	0●1 3△3	3△3 3○0	2○1 1△1	1△1 5○0	8○0 2○0	2○1 5○0	3○0 5○1	35	10	5	1	46	14	32	1
真岡工業	1●2 1△1		5○0 1△1	4○0 1○0	0●4 0●3	2○1 2○1	4○1 1○0	0△0 6○1	4○0 4○0	33	10	3	3	36	15	21	2
宇都宮清陵	1○0 3△3	0●5 1△1		0△0 0△0	0●3 2○1	1○0 2○1	4○0 1●2	1○0 1○0	5○1 5○0	31	9	4	3	27	17	10	3
宇短大附D	3△3 0●3	0●4 0●1	0△0 0△0		2○0 4○1	3○0 1●2	5○0 1△1	5○1 4○0	9○0 5○1	28	8	4	4	42	17	25	4
今市	1●2 1△1	4○0 3○0	3○0 1●2	0●2 1●4		3○1 2○1	3○0 0●2	1●2 2△2	5○1 2○0	26	8	2	6	32	20	12	5
鹿沼	1△1 0●5	1●2 1●2	0●1 1●2	0●3 2○1	1●3 1●2		4○1 1●2	4○0 1○0	5○0 4○0	19	6	1	9	27	25	2	6
足利B	0●8 0●2	1●4 0●1	0●4 2○1	0●5 1△1	0●3 2○0	1●4 2○1		2●3 3○0	2△2 2○1	17	5	2	9	18	40	-22	7
真岡北陵	1●2 0●5	0△0 1●6	0●1 0●1	1●5 0●4	2○1 2△2	0●4 0●1	3○2 0●3		5○0 4○0	14	4	2	10	19	37	-18	8
栃木工業B	0●3 1●5	0●4 0●4	1●5 0●5	1●5 1●5	0●2 0●2	0●5 0●4	2△2 1●2	0●5 0●4		1	0	1	15	7	69	-62	9

ユースリーグ栃木3部d

	真岡C	石橋	鹿沼東	宇短大附C	今市工業	宇都宮商業	宇都宮B	茂木	烏山B	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
真岡C		1○0 0△0	3○0 1△1	1○0 3○0	0●1 0△0	5○0 5○1	8○0 8○0	8○0 6○1	5○0 7○0	39	12	3	1	61	4	57	1
石橋	0●1 0△0		5○2 1●2	4○2 0●2	3○0 7○0	3○0 3○0	3○0 2○1	5○0 7○0	3○0 4○0	37	12	1	3	50	10	40	2
鹿沼東	0●3 1△1	2●5 2○1		1△1 2○1	7○1 3○1	2○0 4○0	5○0 1●3	6○0 6○0	0△0 6○0	33	10	3	3	48	17	31	3
宇短大附C	0●1 0●3	2●4 2○0	1△1 1●2		0●1 5○1	1●4 4○3	1●3 5○0	4○0 1○0	2○1 6○0	25	8	1	7	35	24	11	4
今市工業	1○0 0△0	0●3 0●7	1●7 1●3	1○0 1●5		5○1 1●3	4○2 7○2	2△2 3△3	4○0 3△3	22	6	4	6	34	41	-7	5
宇都宮商業	0●5 1●5	0●3 0●3	0●2 0●4	4○1 3●4	1●5 3○1		0●1 3○0	2○0 2○0	4○0 2○0	21	7	0	9	25	34	-9	6
宇都宮B	0●8 0●8	0●3 1●2	0●5 3○1	3○1 0●5	2●4 2●7	1○0 0●3		2○0 3○2	2△2 0△0	17	5	2	9	19	51	-32	7
茂木	0●8 1●6	0●5 0●7	0●6 0●6	0●4 0●1	2△2 3△3	0●2 0●2	0●2 2●3		2△2 1○0	6	1	3	12	11	59	-48	8
烏山B	0●5 0●7	0●3 0●4	0△0 0●6	1●2 0●6	0●4 3△3	0●4 0●2	2△2 0△0	2△2 0●1		5	0	5	11	8	51	-43	9

ユースリーグ栃木3部e

	白鷗足利B	佐野日大C	國學院栃木B	小山B	青藍泰斗	佐野	足利工業	前:翔南 後:小南	佐日大中等	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
白鷗足利B		0●3 1△1	1○0 2○1	3○0 5○4	3○0 2○0	1○0 5○0	4○1 2△2	4○0 5○0	11○0 -	38	12	2	1	49	12	37	1
佐野日大C	3○0 1△1		2△2 2●3	4○1 1△1	3○0 3○0	3○0 7○1	4○0 6○1	1○0 10○0	3○0 -	36	11	3	1	53	10	43	2
國學院栃木B	0●1 1●2	2△2 3○2		0●1 1○0	2○1 3●4	4○0 6○0	3○2 4○0	5○0 4○0	3○0 -	31	10	1	4	41	15	26	3
小山B	0●3 4●5	1●4 1△1	1○0 0●1		1●2 3○1	0●2 5○4	5○0 3○0	8○0 2△2	4○0 -	23	7	2	6	38	25	13	4
青藍泰斗	0●3 0●2	0●3 0●3	1●2 4○3	2○1 1●3		5○0 5●8	4○0 3△3	1○0 1○0	5○0 -	22	7	1	7	32	31	1	5
佐野	0●1 0●5	0●3 1●7	0●4 0●6	2○0 4●5	0●5 8○5		2○1 0△0	4○1 1○0	3○1 -	19	6	1	8	25	44	-19	6
足利工業	1●4 2△2	0●4 1●6	2●3 0●4	0●5 0●3	0●4 3△3	1●2 0△0		3○0 3○1	3○0 -	12	3	3	9	19	41	-22	7
前:翔南 後:小南D	0●4 0●5	0●1 0●10	0●5 0●4	0●8 2△2	0●1 0●1	1●4 0●1	0●3 1●3		1○0 -	1	0	1	13	5	52	-47	8
佐日大中等	0●11 -	0●3 -	0●3 -	0●4 -	0●5 -	1●3 -	0●3 -	0●1 -		0	0	0	7	1	33	-32	9

ユースリーグ栃木3部f

	佐野東	足利清風	小南山B	小山北桜	足利大附B	小山西B	栃木B	壬生	足利	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
佐野東		1○0 2○1	2●8 2△2	1●2 4○2	2△2 3○0	3○1 2○1	1●2 2○0	1○0 3○1	5○0 4○1	35	11	2	3	38	23	15	1
足利清風	0●1 1●2		3△3 2△2	7○1 3○0	1△1 3○1	2○1 3○0	2○0 1△1	2○0 2○0	2○1 4○1	34	10	4	2	38	15	23	2
小南山B	8○2 2△2	3△3 2△2		2○0 3○2	5○2 1●3	2○0 0●3	1○0 0△0	1△1 1○0	2○0 2○0	32	9	5	2	35	20	15	3
小山北桜	2○1 2●4	1●7 0●3	0●2 2●3		3○2 6○4	0●5 1●3	1●4 3○0	3○1 1○0	5○3 2○1	24	8	0	8	32	43	-11	4
足利大附B	2△2 0●3	1△1 1●3	2●5 3 1	2●3 4●6		1●3 2○1	1○0 0△0	2●3 2○0	3○1 6○1	21	6	3	7	32	33	-1	5
小山西B	1●3 1●2	1●2 0●3	0●2 3 0	5○0 3○1	3○1 1●2		2●3 0●2	4○2 0△0	0△0 4○2	20	6	2	8	28	25	3	6
栃木B	2○1 0●2	0●2 1△1	0●1 0△0	4○1 0●3	0●1 0△0	3○2 2○0		0●4 0△0	0●1 2○0	19	5	4	7	14	19	-5	7
壬生	0●1 1●3	0●2 0●2	1△1 0●1	1●3 0●1	3○2 0●2	2●4 0△0	4○0 0△0		3○1 0●3	12	3	3	10	15	26	-11	8
足利	0●5 1●4	1●2 1●4	0●2 0●2	3●5 1●2	1●3 1●6	0△0 2●4	1○0 0●2	1●3 3○0		7	2	1	13	16	44	-28	9

中学連盟

栃木県中体連サッカー専門部 関東中学校サッカー大会 栃木開催に向けて

栃木県サッカー協会 3種委員長
栃木県中体連サッカー専門部委員長 御子貝 和亮



(1) 大会全般

今年に関東中学校サッカー大会は8月6日から9日まで栃木県宇都宮市を中心にさくら市・下野市・真岡市・壬生町のご協力を得て行われます。

ここ数年の猛暑の影響で各都県大会においても、JFAからのガイドラインをもとに地区大会、県大会を通じて大会の運営には苦慮していることと思います。関東大会栃木大会においても、選手の安全を最優先に考え、運営全般にわたり、最大の準備をし、他県の選手をお迎えし、より一層に盛り上がる大会にしていきたいと思っています。

(2) 実行委員会

- ・第1回実行委員会 令和元年5月23日(木)
 - (1) 大会要項、日程、組み合わせ等について
 - (2) 実行委員会組織、各係分担の内容について
 - (3) Tシャツの販売について
- ・第2回実行委員会 令和元年7月22日(月)
 - (1) 実行委員会組織、各係分担の内容について
 - (2) 関東大会視察について
 - (3) 今後の会議等の日程について
- ・第3回実行委員会 令和元年10月3日(木)
 - (1) 実行委員会組織、各係分担の内容について
 - (2) 関東大会視察報告
 - (3) 今後の作業の進め方について
 - (4) 今後の会議等の日程について
- ・第4回実行委員会 令和2年3月13日(金) 予定
令和元年3月に準備会を開き、現在までで3回の実行委員会を開催している。現在、大会要項・日程・組合せが確定している。組織作りは、主要の係に、各地区委員長が就き、仕事を進めている状況である。

(3) グラン드의確保

1回戦8会場(天然芝)、2回戦と5、6位決定戦4会場(天然芝)、準決勝・決勝と第7代表決定

戦2会場(天然芝)を予定している。暑熱対策としてオール天然芝、会場にクーラー付きの控え室、1回戦は午前中10:30キックオフで1会場1試合で行う予定にしたが、現在、天然芝グラウンドが1会場確保できず人工芝になり、クーラー付きの控え室も1会場だけ確保できない状況になりました。グラウンド確保については次の年の調整会議が12月から始まっていて、調整の際には栃木県サッカー協会ならびに各自治体には大変なご苦勞を掛け確保していただきありがとうございます。

1回戦8会場

栃木県総合運動公園サッカー場A・C、さくらスタジアム、河内総合運動公園陸上競技場、壬生総合運動公園、真岡市総合運動公園、大松山運動公園陸上競技場、栃木SC宇都宮フィールド(人工芝)

2回戦・5、6位決定戦

栃木県グリーンスタジアム、さくらスタジアム、真岡市総合運動公園 大松山運動公園陸上競技場

準決勝・決勝・第7代表決定戦

栃木県グリーンスタジアム、河内総合運動公園陸上競技場

(4) 暑熱対策

関東中学校大会は、8月開催で夏の暑さの真っ只中にあたる。運営面でもWGBTを計測した上で「クーリングブレイク」「飲水タイム」を設けるなど、選手の健康面での配慮をし各チームの暑さに対するマネージメントをしてもらうべく以下の指針を示し大会を運営したい。

中体連の大会ということで、大会日をずらすことはできないことを考えると大会は行うことを前提に考え、WBGTを計測し、31℃以上あつてからでは準備ができないので、今大会は以下の対策を行った上で大会運営を行うことを周知したい。

対策(その1) 事前準備

- ①WBGT計測器の各会場で計測
- ②試合時間の変更=午前中に試合開始
午後2時~3時45分間の試合開始はしない
- ③人工芝ピッチを原則使用しない
- ④ベンチテント・本部テント・控えテントの用意
- ⑤クーラー付きのロッカールームがある会場で行う
- ⑥各会場で水以外のスポーツドリンク等の補給可能エリアについて会場に確認をとってくだ

さい。

- ⑦救急搬送できる病院の確保
- ⑧各会場グラウンド近くにAEDを確保

対策（その2）大会・試合実施時の対応

- ①WBGTを計測
- ②ガイドラインでは『WBGT 31℃以上の場合
は試合を中止、延期をする』とあるが、当日
WBGTを計測したときに31℃以上あったとき
には『やむを得ず行う場合』として、上記対
策（その1）の準備をした上で、〔Cooling
Break〕を行う。
WBGT 25℃以上 ハーフタイム10分、
飲水タイム1分。
WBGT 28℃以上 ハーフタイム10分、
Cooling Break
WBGT 31℃以上 ハーフタイム10分、
飲水タイム1分、Cooling Break
- ③各チームに当日の、氷、スポーツドリンク、経
口補水液の準備をチームの責任において必ず
準備する。

近年の暑さからいけばサッカーという種目を行
うことは選手の健康面を考えると困難である。し
かし、大会をやらなければならない場合、プレイ
ヤーズファーストと選手の健康面の配慮をするこ
とで、試合の運営が可能である。上記にあるよう
なあらゆる対策を講じ、通常は変えることがない
レギュレーションなども思い切って変えて行い、
最善の安全面での配慮で運営は可能であると考え
る。しかし、実際には1日目8会場を使用する
ことでの会場不足・費用不足や、クーラー付きの
競技場が少ないこと、使用できる天然芝ピッチが
少ないなど問題も多いが、選手の安全を第一に考
え、栃木県中体連サッカー専門部の先生方全員の
協力でこの栃木県開催の関東大会を成功させたい
と思います。

4種委員会

第48回栃木県少年サッカー 選手権大会

11月23日から4日間にわたり、第48回選手権大
会が行われました。



今大会は169チームと多くのチームが参加して熱
い戦いが繰り広げられました。決勝の組み合わせは
ヴェルフェ矢板U-12・blanc（塩南）対 栃木サッ
カークラブU-12（宇河）となりました。先取点は
前半からボールへの寄せが速かったヴェルフェ矢
板でした。後半、栃木サッカークラブも追い上げま
したが、追加点をあげたヴェルフェ矢板が決勝を
制しました。準優勝は栃木サッカークラブU-12、
第3位にはJFCファイターズ（芳賀）、FC VAL
ON（下都賀）が輝きました。



＜優勝したヴェルフェ矢板U-12・Blanc＞



＜準優勝の栃木サッカークラブU-12＞



＜第3位のJFCファイターズ＞



＜第3位のFC VALON＞

また、11月30日、12月1日には、ジュニアの部（4年生以下）も開催されました。結果は、ヴェルフェ矢板U-10（塩南）、栃木サッカークラブU-12（宇河）、ともぞうサッカークラブU10（宇河）、野原グランディオスFC（北那須）が各ブロックで優勝しました。

JFA第43回全日本U-12 サッカー選手権大会栃木県大会

10月27日から3日間にわたり、64チームが全国大会への出場をかけた熱戦を繰り広げました。

最終日の準決勝まで勝ち進んだのは、栃木サッカークラブU-12（宇河）、三島FC（北那須）、TEAMリフレSC（宇河）、S4スペランツァ（宇河）の4チームでした。



＜準優勝の栃木サッカークラブU-12＞



決勝戦は、栃木サッカークラブU-12とTEAMリフレSCの戦いとなりました。前半から堅いディフェンスから確実に得点を重ねた栃木サッカークラブU-12が優勝し、6度目の全国大会への出場権を掴みました。



＜優勝の栃木サッカークラブU-12＞



＜準優勝のTEAMリフレSC＞



＜第三位 三島FC＞



＜第三位のS4スペランツァ＞

JFA第43回全日本U-12 サッカー選手権大会

12月25日から鹿児島県にて開催されました。本県代表の栃木サッカークラブU-12はSSクリエイト（大阪府）、リベロ津軽SC（青森県）、ソレッソ熊本（熊本県）の3チームと予選リーグを戦いました。SSクリエイトに0-4、リベロ津軽SCに1-3、ソレッソ熊本に0-3と、3敗し予選敗退となりました。

JA全農杯全国小学生サッカー大会 in関東栃木県大会 兼 第37回栃木県少年サッカー新人大会

1月26日から3日間にわたって新人大会が開催されました。大会は、各地区の予選を勝ち上がった64チームが優勝を目指して激しい戦いを繰り広げました。

準決勝に勝ち進んだのは、栃木サッカークラブU-12（宇河）、ヴェルフェ矢板U-12（塩南）、三島FC（北那須）、FE. アトレチコ佐野（両毛）の4チームでした。決勝は、栃木サッカークラブU-12対FE. アトレチコ佐野の対決となりました。栃木サッカークラブU-12が8-0で快勝し、優勝の栄冠を勝ち取りました。



＜優勝の栃木サッカークラブU-12＞



＜準優勝のFE. アトレチコ佐野＞



＜第3位のヴェルフェ矢板U-12＞



＜第3位の三島FC＞

クラブユース

2019年度 第13回関東ユース (U-15) サッカーリーグ1部

「リーグ戦を振り返って感じたこと。」

栃木サッカークラブU-15 監督 町田

関東1部のハイレベルで戦えたことは選手、指導者、クラブにとって貴重な経験、財産になりました。

残念ながら残留するというミッションは達成できませんでしたが、リーグ戦を戦っていく中で、選手たちは逞しく成長できたことも事実です。

このリーグで生き残っていく為には、いくつか改善していかなければいけないことがあります。まず1つは相手の立ち位置を把握しながら素早く判断し、正確にプレーすることです。(相手を見てサッカーをすること)他チームの選手は当たり前前に早く正確にプレーできます。この差を埋めるには、時間と積み重ねが育成年代には必要なことだと思うので取り組んでいきたいと思います。2つ目は攻守の切り替え(トランジション)の早さ。ほんの一瞬の隙が失点に繋がられてしまう。他チームは隙を与えない中で逆に突いてくる。得点を取るためにはその隙を仕留めるパワー、技術、チャンスを感じる目を養っていくことだと思いますし、逆に失点をしないためにはピンチを感じる目(相手、スペースを見つける)を一人ひとりが持ち、局面の強さを磨かなければ防ぐことが難しいと改めて感じさせてくれたリーグ戦でした。改善するために努力していきたいと思います。





第16回 栃木県クラブユース連盟 ラストゴール杯

優勝 矢板SC

【大会の内容】

グループリーグ（予選）は30分1本と変則的なレギュレーションだったため、いかに失点をせずゴールを奪いに行くかという部分をポイントに準備しました。

その結果、グループリーグでは失点0。大会全体を通して失点は決勝の1のみで抑えることができました。

得点の面でも、守備を整えてからのカウンターでとる得点が多く、「良い守備から良い攻撃へ」を徹底する事ができました。

【大会に関して監督コメント】

監督：上林 孝至

今大会はこれまで出場機会の少なかった選手を主体にメンバー編成を行いました。

大会前、選手たちには「このメンバー編成の目的は、単なる思い出づくりではなく、全選手の成長を証明する大会にしたい。」と指導者の考えを伝えました。

私自身もそうですし、多くの指導者の頭を悩ませるものはメンバー選考だと思います。努力して成長している事が分かって、一定のレベルに達していなかったり、さらに良い選手がいればメンバーには選べません。

試合には出せなくても、選手にポジティブな影響を与えモチベーションを保ち続けるというのは難しい仕事です。選手が成長を感じられるのは試合や大会でのプレーであり、結果です。

全3年生に、3年間の努力はしっかりと積み重なっている事を証明するためにこの大会を戦いたいと伝えました。

高円宮杯 関東大会が終了してからラストゴール杯までは1週間でしたが、その期間全選手のモチベーションは高く、自身の成長を証明するためにこれまで以上に激しいトレーニングとなりました。ラストゴール杯の結果は、優勝という最高の結果を選手たちが出してくれました。

私自身は嬉しいという感情に加え、安心したというのが素直な感情でした。チームや指導を信じてトレーニングに励んできてくれた選手に少しですが報いることができたのではと思いました。

最後に、プレーヤーズファーストでこのラストゴール杯を企画・運営してくださる栃木県クラブユース連盟の方々、関係者の皆様には大変感謝しております。

この大会の位置づけは各チームそれぞれですが、我々は3年生にとって重要な大会だと位置づけています。この大会のおかげで最後まで選手たちに目標を持たせることができています。今大会、素晴らしい時間を与えて頂き、ありがとうございました。



高円宮杯 栃木ユースリーグU-15 1部 優勝

足利両毛ユナイテッドFC

リーグ内容のコメント

全18試合を通して、スピードを重視した攻撃と守備を意識させて戦いを終えた。攻撃に至っては、カウンターで得点することと、無理なタテへの攻撃をしないことの狙いとその判断スピードを強調。そして守備に至っては、ボールを失った選手の攻守の切り替えスピードとオフザボールの選手のポジション修正のスピードを注意して戦うことができた。一番配慮したことは、気合が空回りしてしまう選手、感情に負けて自分をコントロールできない選手を外し、冷静に闘える選手で臨むことであった。心が右往左往してしまう年代だけに、皆でやろうとする共有点からかなり逸脱してしまったこともあった。しかしながら、そういった所からの修正も早かった所が大きかった。



指導者コメント

「心・技・体」とか「3B」は今や死語に近い表現であるが、リーグを通して選手ら自身がそれらを成長させて、半ば具現化してくれたと思います。試合に出場しないベンチの選手らも、試合のデータ取りに真剣に取り組み、ハーフタイム中に修正点を皆で確認して後半に臨むスタイルを続け、「チームを勝たせるために」動いてくれた。今回の優勝には、ご父兄の協力、スタッフ陣の意思疎通、選手の向上心などもろもろの収束の証しと思います。関わる皆さんの熱いハートが選手らに反映し、自立を促し、練習にて技術・戦術の習得をこなし、自己管理を整わせ「リーグ」に臨んだ結果が実を結んだものと思います。



シニア委員会

KTFA 第13回 O-40サッカー大会

【試合会場】 コーエイ前橋フットボールセンター

【試合時間】 予選リーグ(①~⑫):50分(25分-10分-25分) 順位決定戦(⑬~⑯):50分(25分-10分-25分)+ PK戦

試合日	マッチ No.	試合会場	キックオフ 時間	対 戦 カ ー ド				備 考	
				チーム名	都県名	チーム名	都県名		
11/23 (土)	①	A	10:00	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	VS	FC市原シニア	千葉県	A組予選リーグ
	②	B	10:00	エリス東京シニア740	東京都	VS	栃木53シニア	栃木県	A組予選リーグ
	③	A	11:15	横浜シニア	神奈川県	VS	大泉FCクワレタ	群馬県	B組予選リーグ
	④	B	11:15	FCリズム	山梨県	VS	SOL TODA	埼玉県	B組予選リーグ
	⑤	A	12:30	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	VS	エリス東京シニア740	東京都	A組予選リーグ
	⑥	B	12:30	FC市原シニア	千葉県	VS	栃木53シニア	栃木県	A組予選リーグ
	⑦	A	13:45	横浜シニア	神奈川県	VS	FCリズム	山梨県	B組予選リーグ
	⑧	B	13:45	大泉FCクワレタ	群馬県	VS	SOL TODA	埼玉県	B組予選リーグ
11/24 (日)	⑨	A	9:30	FC市原シニア	千葉県	VS	エリス東京シニア740	東京都	A組予選リーグ
	⑩	B	9:30	ドリーム水戸シニアFC	茨城県	VS	栃木53シニア	栃木県	A組予選リーグ
	⑪	A	10:45	大泉FCクワレタ	群馬県	VS	FCリズム	山梨県	B組予選リーグ
	⑫	B	10:45	横浜シニア	神奈川県	VS	SOL TODA	埼玉県	B組予選リーグ
	⑬	B	12:30		A組4位	VS		B組4位	7・8位決定戦
	⑭	A	12:30		A組3位	VS		B組3位	5・6位決定戦
	⑮	B	13:45		A組2位	VS		B組2位	3位決定戦
	⑯	A	13:45		A組1位	VS		B組1位	優勝決定戦

【戦績表】

※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【A組】		ドリーム水戸シニア 茨城県	FC市原シニア 千葉県	エリス東京シニア740 東京都	栃木53シニア 栃木県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1	ドリーム水戸シニア 茨城県	●	●	○	○	3	3	1	0	2	4	4	0	3
2	FC市原シニア 千葉県	○	●	△	△	3	4	1	1	1	3	2	1	2
3	エリス東京シニア740 東京都	○	○	○	○	3	9	3	0	0	5	0	5	1
4	栃木53シニア 栃木県	●	△	●	○	3	1	0	1	2	0	6	-6	4

【B組】		横浜シニア 神奈川県	大泉FCクワレタ 群馬県	FCリズム 山梨県	SOL TODA 埼玉県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1	横浜シニア 神奈川県	○	○	○	●	3	6	2	0	1	6	2	4	2
2	大泉FCクワレタ 群馬県	●	○	○	●	3	3	1	0	2	4	4	0	3
3	FCリズム 山梨県	●	●	○	●	3	0	0	0	3	3	10	-7	4
4	SOL TODA 埼玉県	○	○	○	○	3	9	3	0	0	6	3	3	1

【順位決定戦】

【優勝決定戦】	エリス東京シニア740	A1位	2	2 - 0 0 - 0	0	SOL TODA	B1位
【3位決定戦】	FC市原シニア	A2位	3	1 - 0 2 - 2	2	横浜シニア	B2位
【5位決定戦】	ドリーム水戸シニア	A3位	0	0 - 0 0 - 2	2	大泉FCクワレタ	B3位
【7位決定戦】	栃木53シニア	A4位	2	0 - 0 2 - 0	0	FCリズム	B4位

優勝 エリス東京シニア740
準優勝 SOL TODA
第3位 FC市原シニア
第4位 横浜シニア
第5位 大泉FCクワレタ
第6位 ドリーム水戸シニア
第7位 栃木53シニア
第8位 FCリズム

KTFA 第13回 関東O-50サッカー大会

【試合会場】 清瀬市山運動公園サッカー場(人工芝) B面・C面 (東京都清瀬市下宿)
 【試合時間】 予選リーグ(①~⑫): 50分(25分-10分-25分) ・ 順位決定戦(⑬~⑯): 40分(20分-10分-20分)+ PK戦

試合日	マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対戦カード										備考欄
				チーム名/都県名	ポイント	計	前後	前後	計	ポイント	チーム名/都県名			
12/7 (土)	①	B面	10:30	セレソソ所沢シニア 埼玉県	1	1	0	-	0	1	1	ラッツオス古河F.C. 茨城県	A組予選リーグ	
	②	C面	10:30	Azul神奈川FC 神奈川県	1	3	0	-	0	0	1	栃木教員マスターズ 栃木県	A組予選リーグ	
	③	B面	12:00	FC船橋50 千葉県	0	0	0	-	0	0	0	山梨マスターズ 山梨県	B組予選リーグ	
	④	C面	12:00	関南SC50 群馬県	0	0	0	-	0	0	1	四十雀クラブ東京50 東京都	B組予選リーグ	
	⑤	B面	13:30	セレソソ所沢シニア 埼玉県	0	3	1	-	0	0	3	Azul神奈川FC 神奈川県	A組予選リーグ	
	⑥	C面	13:30	ラッツオス古河F.C. 茨城県	2	0	0	-	1	1	1	栃木教員マスターズ 栃木県	A組予選リーグ	
	⑦	B面	15:00	FC船橋50 千葉県	1	0	0	-	2	2	0	関南SC50 群馬県	B組予選リーグ	
	⑧	C面	15:00	山梨マスターズ 山梨県	0	0	0	-	1	2	1	四十雀クラブ東京50 東京都	B組予選リーグ	
12/8 (日)	⑨	B面	10:00	セレソソ所沢シニア 埼玉県	0	1	1	-	1	1	0	栃木教員マスターズ 栃木県	A組予選リーグ	
	⑩	C面	10:00	ラッツオス古河F.C. 茨城県	0	1	0	-	3	3	0	Azul神奈川FC 神奈川県	A組予選リーグ	
	⑪	B面	11:30	FC船橋50 千葉県	0	0	0	-	1	1	0	四十雀クラブ東京50 東京都	B組予選リーグ	
	⑫	C面	11:30	山梨マスターズ 山梨県	2	0	0	-	0	0	0	関南SC50 群馬県	B組予選リーグ	
	⑬	B面	13:30	ラッツオス古河F.C. 茨城県	1	1	0	-	1	4	4	FC船橋50 千葉県	7・8位決定戦	
	⑭	C面	13:30	栃木教員マスターズ 栃木県	0	0	0	-	1	1	1	山梨マスターズ 山梨県	5・6位決定戦	
	⑮	B面	14:30	セレソソ所沢シニア 埼玉県	3	3	3	-	0	0	0	関南SC50 群馬県	3・4位決定戦	
	⑯	C面	14:30	Azul神奈川FC 神奈川県	0	0	0	-	1	2	2	四十雀クラブ東京50 東京都	1・2位決定戦	

※勝ち(O):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【A組】	セレソソ所沢シニア 埼玉県	ラッツオス古河F.C. 茨城県	Azul神奈川FC 神奈川県	栃木教員マスターズ 栃木県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	ポイント	順位
1	セレソソ所沢シニア 埼玉県	△	○	△	3	5	1	2	0	5	2	3	1	2
2	ラッツオス古河F.C. 茨城県	△	●	●	3	1	0	1	2	2	5	-3	3	4
3	Azul神奈川FC 神奈川県	●	○	○	3	6	2	0	1	6	4	2	4	1
4	栃木教員マスターズ 栃木県	△	○	●	3	4	1	1	1	2	4	-2	2	3

【B組】	FC船橋50 千葉県	山梨マスターズ 山梨県	関南SC50 群馬県	四十雀クラブ東京50 東京都	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	ポイント	順位
1	FC船橋50 千葉県	△	●	●	3	1	0	1	2	0	3	-3	1	4
2	山梨マスターズ 山梨県	△	△	●	3	2	0	2	1	0	2	-2	2	3
3	関南SC50 群馬県	○	△	△	3	5	1	2	0	2	0	2	0	2
4	四十雀クラブ東京50 東京都	○	○	△	3	7	2	1	0	3	0	3	2	1

【順位決定戦】

【優勝決定戦】	Azul神奈川FC 神奈川県	A1位	0	0	-	1	2	四十雀クラブ東京50 東京都	B1位	優勝 東京都 四十雀クラブ東京50 準優勝 神奈川県 Azul神奈川FC
【3位決定戦】	セレソソ所沢シニア 埼玉県	A2位	3	3	-	0	0	関南SC50 群馬県	B2位	第3位 埼玉県 セレソソ所沢シニア 第4位 群馬県 関南SC50
【5位決定戦】	栃木教員マスターズ 栃木県	A3位	0	0	-	1	1	山梨マスターズ 山梨県	B3位	第5位 山梨県 山梨マスターズ 第6位 栃木県 栃木教員マスターズ
【7位決定戦】	ラッツオス古河F.C. 茨城県	A4位	1	0	-	1	4	FC船橋50 千葉県	B4位	第7位 千葉県 FC船橋50 第8位 茨城県 ラッツオス古河F.C.

JFA第20回全日本O-60サッカー大会関東予選会

A組		①東京都	②千葉県	③神奈川県	④群馬県	順位	勝点	勝数	引分	負数	ポイント	得点	失点	得失点差
①東京都	PET		A-① 1-0 ○	B-③ 4-0 ○	B-⑥ 2-0 ○	1	9	3				7	0	7
②千葉県	千葉四十雀SC	A-① 0-1 ×		A-⑤ 3-0 ○	A-③ 2-2 △	2	4	1	1	1		5	3	2
③神奈川県	茅ヶ崎WEST60	B-③ 0-4 ×	A-⑤ 0-3 ×		B-① 2-4 ×	4	0			3		2	11	-9
④群馬県	FC大泉60	B-⑥ 0-2 ×	A-③ 2-2 △	B-① 4-2 ○		3	4	1	1	1		6	6	0

B組		⑤茨城県	⑥山梨県	⑦栃木県	⑧埼玉県	順位	勝点	勝数	引分	負数	ポイント	得点	失点	得失点差
⑤茨城県	ラッツォス古河FC		A-② 2-0	B-④ 2-1	A-⑥ 0-3	2	6	2		1		4	4	0
⑥山梨県	山梨シニア60	A-① 0-2 ×		B-⑤ 0-1 ×	A-④ 0-3 ×	4	0			3		0	6	-6
⑦栃木県	とち丸シニア	B-④ 1-2 ×	B-⑤ 1-0 ○		B-② 1-2 ×	3	3	1		2		3	4	-1
⑧埼玉県	埼玉シニア60	A-⑥ 3-0 ○	A-④ 3-0 ○	B-② 2-1 ○		1	9	3				8	1	7

優勝決定戦	A組1位	B組1位
	PET 3	埼玉シニア60 0
3・4位決定戦	A組2位	B組2位
	千葉四十雀S. C 1	ラッツォス古河FC 3
5・6位決定戦	A組3位	B組3位
	FC大泉60 1	とち丸シニア 3
7・8位決定戦	A組4位	B組4位
	茅ヶ崎WEST60 0	山梨シニア60 4

優勝	準優勝
PET	埼玉シニア60
第3位	第4位
ラッツォス古河FC	千葉四十雀S. C
第5位	第6位
とち丸シニア	FC大泉60
第7位	第8位
山梨シニア60	茅ヶ崎WEST60

JFA第14回O-70サッカー大会関東予選会 兼KTFA第7回関東O-70サッカー大会 結果表

【試合会場】 栃木県宇都宮市河内総合運動公園陸上競技場・多目的運動広場

【試合時間】 予選リーグ(①~⑫):40分(20分-10分-20分)・順位決定戦(⑬~⑯):40分(20分-10分-20分)+ PK戦

試合日	マッチ No.	試合会場	キックオフ 時間	対 戦 カ ー ド				備考欄	
				対戦チーム	得点	失点	PK		
11/16 (土)	①	陸上競技場	10:30	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	1	1 - 0 0 - 0	0	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	A組予選リーグ
	②	多目的運動広場	10:30	群馬FC70 群馬県	0	0 - 0 0 - 0	0	東京都ロイヤル 東京都	A組予選リーグ
	③	陸上競技場	11:45	アスレチッククラブちば 千葉県	2	2 - 1 0 - 0	1	埼玉シニア70 埼玉県	B組予選リーグ
	④	多目的運動広場	11:45	山梨シニア 70 山梨県	0	0 - 0 0 - 2	2	茨城シニア70 茨城県	B組予選リーグ
	⑤	陸上競技場	13:00	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	2	1 - 0 1 - 0	0	群馬FC70 群馬県	A組予選リーグ
	⑥	多目的運動広場	13:00	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	0	0 - 2 0 - 1	3	東京都ロイヤル 東京都	A組予選リーグ
	⑦	陸上競技場	14:15	アスレチッククラブちば 千葉県	2	2 - 0 0 - 0	0	山梨シニア 70 山梨県	B組予選リーグ
	⑧	多目的運動広場	14:15	埼玉シニア70 埼玉県	0	0 - 0 0 - 1	1	茨城シニア70 茨城県	B組予選リーグ
11/17 (日)	⑨	陸上競技場	10:00	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	1	0 - 0 1 - 1	1	群馬FC70 群馬県	A組予選リーグ
	⑩	多目的運動広場	10:00	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	2	1 - 0 1 - 1	1	東京都ロイヤル 東京都	B組予選リーグ
	⑪	陸上競技場	11:15	埼玉シニア70 埼玉県	0	0 - 0 0 - 0	0	山梨シニア 70 山梨県	A組予選リーグ
	⑫	多目的運動広場	11:15	アスレチッククラブちば 千葉県	1	0 - 0 1 - 0	0	茨城シニア70 茨城県	B組予選リーグ
	⑬	多目的運動広場	13:15	栃木大昭サッカークラブ A4位	0	0 - 0 0 - 0	0	山梨シニア 70 B4位	7・8位決定戦
	⑭	陸上競技場	13:15	群馬FC70 A3位	0	0 - 0 0 - 1	1	埼玉シニア70 B3位	5・6位決定戦
	⑮	多目的運動広場	14:30	東京都ロイヤル A2位	0	0 - 1 0 - 0	1	茨城シニア70 B2位	3位決定戦
	⑯	陸上競技場	14:30	茅ヶ崎シニア70 A1位	2	1 - 0 1 - 0	0	アスレチッククラブちば B1位	優勝決定戦

※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【A組】		茅ヶ崎シニア70 神奈川県	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	群馬FC70 群馬県	東京都ロイヤル 東京都	試合数	勝点	勝数	分 数	負 数	得 点	失 点	得失 点差	順 位
1	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	○	○	○	○	3	9	3	0	0	5	1	4	1
2	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	●	△	●	●	3	1	0	1	2	1	5	-4	4
3	群馬FC70 群馬県	●	△	△	△	3	2	0	2	1	1	3	-2	3
4	東京都ロイヤル 東京都	●	○	△	○	3	4	1	1	1	4	2	2	2

【B組】		アスレチッククラブちば 千葉県	埼玉シニア70 埼玉県	山梨シニア 70 山梨県	茨城シニア70 茨城県	試合数	勝点	勝数	分 数	負 数	得 点	失 点	得失 点差	順 位
1	アスレチッククラブちば 千葉県	○	○	○	○	3	9	3	0	0	5	1	4	1
2	埼玉シニア70 埼玉県	●	△	●	●	3	1	0	1	2	1	3	-2	3
3	山梨シニア 70 山梨県	●	△	●	●	3	1	0	1	2	0	4	-4	4
4	茨城シニア70 茨城県	●	○	○	○	3	6	2	0	1	3	1	2	2

【順位決定戦】

【優勝決定戦】	茅ヶ崎シニア70 神奈川県	A1位	2	1 - 0	0	アスレチッククラブちば 千葉県	B1位	優勝	茅ヶ崎シニア70
				1 - 0				準優勝	アスレチッククラブちば
【3位決定戦】	東京都ロイヤル 東京都	A2位	0	0 - 1	1	茨城シニア70 茨城県	B2位	第3位	茨城シニア70
				0 - 0				第4位	東京都ロイヤル
【5位決定戦】	群馬FC70 群馬県	A3位	0	0 - 0	1	埼玉シニア70 埼玉県	B3位	第5位	埼玉シニア70
				0 - 1				第6位	群馬FC70
【7位決定戦】	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	A4位	0	0 - 0	0	山梨シニア 70 山梨県	B4位	第7位	栃木大昭サッカークラブ
				0 - 0				第8位	山梨シニア 70
			7	PK	6				

キッズ委員会

2019年度「関東地域キッズ
ミーティング」について

県キッズ委員 高木 智弥

◇山梨県で開催

関東ジョイントミーティングが今回は山梨県立甲府支援学校体育館で、バリアフリースポーツフェスティバルが開催されました。

当日は、障がい者スポーツとして浸透している「ブラインドサッカー」「ボッチャ」「車いすサッカー」を通して、障がい者のスポーツ環境を知るとともに、障がいの有無にかかわらずスポーツに親しむ意識の構築を図る目的とし、小学校3年生の男女と高校生がユースコーチとして参加、体験しました。

ディスカッションでは、今後の障がい者スポーツとの関係づくりと題して、意見を交換しました。

本県もグラスルーツ化に向け、障がい者スポーツとの連携を図りたいと思います。

◇上都賀地区でフェスティバルを開催

11月には上都賀地区の丸山公園サッカー場で開催しました。初心者・経験者の園児・1・2年生を集め、シュートトレーニングやゲーム、親子ゲームなどを実施しました。



参加者からは『子供が笑顔で楽しそうに参加しているのを見てサッカーを始めさせてあげたい』などのお声をいただきました。

◇塩南地区でフェスティバルを開催

11月には塩南地区のとちぎフットボールセンターで開催しました。当日は、チームに所属していなく、サッカーを楽しみたい小学校1・2年生の男女が参加、またリフレッシュ研修会に出席した、キッズリーダー、D・C級ライセンス所有の指導者の実技指導も兼ね、子供・指導者がお互いに緊張していたが、段々と打ち解けあい笑顔がこぼれる中のフェスティバルになりました。

参加者からは『チームに所属して始めてみたい』『定期的実施して欲しい』などのお声をいただきました。



◇高校生サッカー部（ユースコーチ）との関わり

高校との連携として今年度は宇都宮北・宇都宮工業・さくら清修・烏山・小山南・真岡・小山西・鹿沼・鹿沼東・今市・今市工業・佐野東・佐野日大・足利の各高校のサッカー部がフェスティバル・アカデミーを開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止で中止になった高校もありましたが、休校措置前に実施した高校では楽しくでき、終了後は笑顔でハイタッチをしました。

『楽しかったのでまた一緒にボールを蹴りたい』『高校生のようにならなりたい』など、参加し

た子供たちがサッカーを続けるきっかけになるよう全力で取り組んでいます。



キッズ委員会ではこのようなフェスティバルを県内のすべての地区で開催していくことを目標にしています。実施する為には、場所と人員の確保が必要になります。

各地区のキッズ委員の方や、他の委員会のみならずと一緒で開催していければと思っています。フェスティバルの開催やキッズ年代の事業にご興味のある際はお気軽にお声をお掛け下さい。

フットサル委員会

第25回全日本フットサル選手権関東大会 栃木開催で熱戦

「フットサルの天皇杯」に相当するJFA第25回全日本フットサル選手権大会関東大会が1月11、12、26日の3日間、大田原市の県北体育館で行われました。大会には関東リーグのシード4チームに、各都県の代表を加えた16チームが出場し、熱戦を繰り広げました。本県からは今季、モランゴ栃木FCから名前を変えた栃木シティFCと、2年連続でM. C. ウドボロス／栃木F. C. が出場し、関東の強豪相手に健闘しました。

栃木県第1代表となる栃木シティFCは、昨年の夏から秋にかけてFリーグ（日本リーグ）や関東リーグで活躍した実力選手を大量補強。栃木県フットサルリーグを制覇した勢いに乗って、地元開催

の大舞台に挑みました。1回戦は群馬県代表のアツヴィータスポーツ群馬を4－3で退けると、準決勝では関東リーグ前期4位でシード出場を果たした東京都のゾット早稲田FCに3－2と勝利し、県勢最高成績となるベスト4に駒を進めました。

大会最終日は全国大会の3枠を争って、栃木シティFC、ASVペスカドーラ町田アスピランチ（関東リーグ前期1位、東京）、コロナFC／権田（神奈川）、マルバ茨城fc（茨城）が激突しました。栃木シティFCは準決勝でASVペスカドーラ町田アスピランチに3－4で惜敗すると、3位決定戦では3－7でマルバ茨城fcに破れ、惜しくも県勢初となる本大会出場はなりませんでした。



▲4位に入った栃木シティFCの選手たち

一方、M. C. ウドボロス／栃木F. C. は1回戦で関東リーグ前期2位で出場のファイルフォックス八王子（東京）と対戦。格上チームに果敢に挑みましたが、0－4で破れ、県勢そろっての初戦突破はなりませんでした。なお、関東代表は栃木シティFCを除いた上位3チームとなりましたが、その後の新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

栃木シティFC 窪堀宏一監督の話

県予選から勝ち上がっていくにつれ、選手間でのコンビネーション向上が図られ、4位という成績を残すことができました。同時に1日2試合を戦い抜くフィジカルが不足していたことも課題に残りました。新シーズンは県勢初の本大会出場を果たせるよう頑張っていきたいと思います。

M. C. ウドボロス／栃木F. C. 坂本忠之監督の話

前回大会で初めて関東大会を経験し、選手たちがその経験を存分に生かしてくれました。初戦敗退となりましたが、関東の強豪相手に差は縮まっていると感じられる一戦でした。2020年はチームにとって5年目のシーズン。今回の経験を生かし、関東リーグ昇格を目指して頑張っていきたいです。

審判委員会

第4種審判委員会より

第4種 審判委員長 高瀬 亮

第4種少年サッカー連盟の審判委員会では、以下の事業を実施しています。

- (1) 各種大会への審判員派遣・割当
- (2) 審判研修会の開催
- (3) 3級審判昇級試験に向けた支援
- (4) 他種別との連携と各種試合への審判員派遣



これらの事業を進める上で、各地区の審判委員長さんとの連携・協力は不可欠です。地区の審判員の実情をよく知り、適切な人選や調整をしてくださっています。地区によって実情は異なりますが、意欲的に取り組んでいる地区では、確実に成果が表れています。特に、4種関係の3級審判員昇級審査の受験者がここ2年で30名以上、合格者は15名になっており、県大会最終日などを担当できる審判員が増えてきています。「いつも同じメンバー」から「いつも違うメンバー」で県大会の最終日の審判割当ができることを目標にしていたので、少しずつその目標に近づいているのを感じます。

その一方で、課題も多くあります。2018年度まで、各地区で実施してきた実技研修会の方法を変更したことで、審判の資質向上が図れないのではないかという声もあります。確かに、実技研修会に合格するために経験を積んで、技能が向上する審判員もいるかと思えます。しかし、競技運営委員会や技術委員会の方々の理解もあり、誰もが気軽に自信をもって審判を務めることのできる環境づくりが必要であると考えました。研修会のために仕方なく審判をするのではなく、審判活動を楽しみながら選手のために目の前の1試合を全力で取り組んでほしいと思います。実技研修会を無くしたわけではありませんので、4級を取得したばかりの方は、地区内の上級審判員の方からアドバイスをいただきながら、経験を積んでほしいと思います。

また、3級審判員の増員も課題です。もっと多くの方に上級を目指していただけるように継続したサポートをしますので、3級昇級を検討している方は、各地区の審判委員長に相談をしてください。特に、2020シーズンは、昇級に向けたサポートを充実していきますので、4種関係の3級審判員が増えるように、そして、県大会の最終日や他



▲M. C. ウドボロス／栃木F. C. の選手たち

宇都宮市在住のビーチサッカー元日本代表磯選手が3年連続3冠

宇都宮市在住でビーチサッカー元日本代表選手の磯裕章選手（東京ヴェルディビーチサッカーチーム所属）が、2019年シーズンに3年連続3冠を達成しました。18年に日本代表として活動した磯選手は、今年の冬、それまで住んでいた東京から、故郷の宇都宮市へと戻り、週1度、東京へ行ってビーチサッカーの練習をこなし、とんぼ返りするハードなスケジュールを送っています。磯選手にここまでの道のりを伺いました。

ビーチサッカー界の3冠は地域リーグチャンピオンシップ、関東リーグ、JFA全日本大会の制覇を差し、ヴェルディはチーム創設以来、負けなしで公式戦を戦っています。チーム創設時に7人の日本代表選手を獲得し、スタートをきったヴェルディで、守備をメインとするフィクソのポジションを担っています。

対戦チームはヴェルディと聞いただけで、目の色を変えて向かってきます。だからこそ自分たちも「負けられない」。歴史あるチームの看板を背負い、常に厳しい試合に臨んでいます。



▲M. C. ウドボロス／栃木F. C. の選手たち

種別の試合で審判が務められるように、ともに頑張っていきましょう。

いちご一会とちぎ国体に向けて

審判委員会 副委員長 羽石 剛

2022年に本県で開催となる「いちご一会とちぎ国体」の準備に生かすべく、隣の茨城県で開催されました「いきいきいばらきゆめ国体」を舘岡孝弘氏と2名で9月28日から3日間視察をしてきました。

国体は、少年の部、成年の部、女子の部と3カテゴリーで大会が実施されますが、今大会は9月29日（日）から10月3日（木）までの5日間で56試合実施され、審判員はJFA派遣の1級審判員と地元審判員及び関東近県派遣審判員の計95名が招集されておりました。

全国大会や関東大会では、審判員研修会を同時に開催することが多く、この国体も男子はJリーグ担当を目指す「JFL担当」「NC担当」1級審判員の研修会（女子は女子1級研修会）として開催され、男子は鹿嶋市、女子はひたちなか市が会場でした。

ちなみに研修会の期間ですが、男子の研修会が9月28日から10月3日までの6日間、女子は9月28日から10月2日までの5日間と開催FAも長丁場の対応を求められます。

我々は、まず大会開催前日28日夕刻に男子審判員宿舎である日本製鉄鹿島人材育成センターに足を運び、夜の全体研修会の様子を確認。

小川JFA審判委員長（当日）、長田関東審判委員長及び地元の藤ヶ崎茨城審判委員長とそうそうたるメンバーからのあいさつの後、恩氏チーフインストラクターをはじめJFAインストラクターの自己紹介があり、その後視察メンバーからも自己紹介ということで、次回開催地鹿児島FA、次々開催地三重FAの方々のあいさつ後、いよいよ我々の出番。藤ヶ崎茨城審判委員長から「魅力度ランキング最下位争いをする栃木県」といじられながらも、わが栃木について「いちご生産量日本一」や「いちご一会国体」の3年後開催について懸命にPRしました。

その後研修会は、大会要項の確認やインストラクターの講義等があり、最後に初日の割当ての発表があって全体研修会は終了となりました。

翌日は、日中に少年の部の試合会場である高松緑地公園球技場及び北海浜多目的球技場の2会場に足を運び、会場内の審判員の控室やマッチコーディネーションミーティング会場等の環境、また地元茨城FA審判委員会の役員の方々の役割や動き

などを確認。

各試合に担当役員1名、また多い日は1日6会場での試合開催に対して会場担当役員1名を配置するなど、役員配置に関する情報が大いに参考となりました。

夜は、鹿嶋市から女子の会場であるひたちなか市に移動し、女子の夜の全体研修会の見学。スタートから男子と違った雰囲気を感じながら見ておりましたが、インストラクター講義のあと、初日の試合の映像を振り返った場面では小川JFA委員長からの熱い指導が入り、審判員の雰囲気がスタート時と異なり、終了時には熱を帯びた状況を感じながら会場を後にし、鹿嶋市へUターン。

最終日には、本県1級審判員長峯滉希氏と関東近県派遣で参加の小田昂佑氏が一緒に割当てとなった新海浜多目的球技場の試合を見届け、栃木への帰路につきました。

今回の視察で感じたことは、茨城FA審判委員会のみなさんが、藤ヶ崎委員長をはじめ岩瀬総務部を中心とししっかりと協力体制のもと、研修会場が2会場、試合会場が6会場と分かれても、大会期間が5日間であろうとしっかりと協力体制が確立されており、審判員が安心して試合に臨める環境を、そしてインストラクターが安心して試合のアセスメントや審判員指導、また研修会での講義等に臨める環境を提供されていたことです。また、大会プログラムとは別に作成されていた「審判員必携」も審判員に必要な情報が盛り込まれ、まさに「必携」ものでした。



我々栃木FA審判委員会も、いちご一会とちぎ国体に向けて茨城FA審判委員会の対応を大いに参考とし、次の3点を特に意識して今後国体に向けて準備を進めて行きたいと思えます。

①大会期間における地元審判員及び審判関係役員の必要人数の算出。（茨城国体：役員男子20名、女子10名。審判員男子30名、女子16名。ただし、重複3名あり）

役員は、試合会場ごとに運営対応チーフ及び審

判担当役員を置いており、審判担当役員は基本1人1試合配置していた。(3試合開催会場は2名)同様の対応をするためには、役員の日程確保も早い段階から準備する必要あり。

②早期の大会役員及び審判員の確保。

大会期間が5日間、前日夕方からの集合を含め6日間役員が関わることになり、早い段階から大会期間中の役員確保と審判員の確保が必要。特に審判員については、開催地2級審判員が何人対応できるかにより、近県派遣依頼人数も関わるので、3年後に向けた準備を早い段階から取り組む必要がある。

③審判員及びインストラクターの会場への移動は、国体輸送計画により、男子はバス、女子はタクシーで移動をしていた。研修会場開催場所により、輸送に関するタイムスケジュールに関しても準備に関わる必要がある。

3年後のいちご一会とちぎ国体が、茨城国体同様の試合数、また審判員研修会の開催を想定しての感想ではありますが、共通して言えることはやはり「早めの準備」の一言に尽きると思います。

3年後の国体終了後に、「茨城国体視察を生かした準備ができてよかった」と言えるよう、審判委員会メンバーが「One Team」となっていちご一会国体成功に向けて頑張ります!(3年後は、死語になっているのでしょうか…)



本県 長峯滉希氏(右から4人目)と
小田昂佑氏(右から3人目)

小山市・結城市サッカー交流大会

小山市サッカー協会 審判部長 黒澤幸樹

小山市と茨城県結城市のサッカー協会及び両市のサッカー愛好者の親睦と交流を深めるため、小山運動公園サッカー場で第2回目となる交流大会が開催されました。もともと小山市と結城市は、古くから歴史的なつながりがあり、様々な分野で親善関係を築いてきました。平成26年の友好都市盟約締結を機に、サッカーでも交流を深め、両市が共に協力し合いさらに豊かなサッカー文化を築いていくきっかけとなることを願い、この交流大会がスタートしました。

大会当日は絶好のサッカー日和となり、小山市サッカー協会の佐伯明弘副会長をはじめ、島野秀彦理事長ほか多くの来賓のご臨席を賜り、公式戦のような白熱した試合が行われました。我が審判部も、お互いの地域が抱えている審判員をめぐる悩みや新たな取り組みなどについて、結城市サッカー協会審判部の面々と話し合いながら、今後の審判員の相互派遣実現を目指して引き続き交流を深めていくことを誓いました。

次回第3回大会は結城市での開催となります。今年の第2回大会を超えてさらに盛り上がる大会になるよう、小山市サッカー協会審判部としても積極的に尽力するつもりです。



(初日夜全体研修会)



(2日目夜 女子審判員研修会)



第4回全国RA交流サッカー大会に参加して ～宇都宮社会人サッカー審判委員会東北遠征～

宇都宮社会人サッカー審判委員会
副委員長 大山晃一

1 日目

2019年12月14日（土）

第4回全国RA交流サッカー大会

宇都宮社会人サッカー審判委員会の有志13名が、2019年度RAJ 総会・懇親会および第4回全国RA交流サッカー大会に「RA宇都宮」として参加してきました。会場は、福島県双葉郡檜葉町にあるJ-VILLAGE。2011年3月11日の東日本大震災後、東京電力福島第一原発事故の復旧拠点となっていた施設です。J-VILLAGEに到着する前は、復旧拠点として無残な光景が頭にあり、どのように復旧したのか心配でしたが、施設に到着するやいなや、かつての輝かしい施設に復活していたので驚きを隠せませんでした。施設の方の話では震災前よりも施設が充実しており、J-VILLAGEが復活することこそが「東北復興」を意味するものだと話していたことが印象的でした。

試合は天然芝の南フィールド。全国各地から100人近く集まり3チームに分かれリーグ戦2試合を戦いました。我々も新調したユニフォームに袖を通し、全勝を目指して戦いましたが、戦績は1勝1分。優勝はチームノース（東北）。2位はチームイースト（関東、RA宇都宮）、3位はチームウエスト（関西、北信越、九州）でした。日本サッカーの象徴でもあるJ-VILLAGEのピッチでサッカーができる喜びを噛みしめた2試合でした。参加者の中には、かつて日本サッカーリーグの初代得点王 野村六彦氏（元日本代表、元日立（現柏レイソル））や元国際審判員の岡田正義氏もプレーされており、往年の名選手と名審判のプレーを目の前で見ることができ充実した時間を過ごせました。

試合後、総会と懇親会が開催され、会則の変更や次年度役員の選任など、5つ議案が承認されました。座席は各地域の参加者が懇親を深められるよう、ランダムに指定され、普段聞くことのできない地域の審判活動の話や、元国際審判員の方々（7名参加）の体験談などを聞くことができ有意義な2時間でした。

2 日目

2019年12月15日（日）いわきFC施設見学

いわきFCは2012年に創設されたサッカークラブで、流通センター「ドームいわきベース」（アンダーアーマー日本総代理店）と商業施設併設施設のクラブハウス「いわきFCフィールド」を有する東北リーグに所属するチームです。（今シーズンよりJFL昇格）

選手は、施設運営会社である㈱ドームの契約社員として雇用されており、午前中は専用グラウンドで練習を行い、午後は施設のスタッフとして働く。また、フィジカルトレーニングを主体とした練習に特徴があり、選手全員が専門の栄養士が管理する食事を原則3食とり、サプリメントの供給を受けるなど、選手の肉体強化を主眼に置いた練習方針をとっています。商業施設内には、アンダーアーマーのショップをはじめ、レストランや英会話教室、クリニック、カフェ、クラブハウス、トレーニングルームなど10施設が入っていました。

レストランやカフェは全てピッチに面しており、試合を観戦しながら食事がとれる設計で国内では珍しい施設でした。選手は、安定した収入を得ながらサッカーに専念することができ、商業施設も併設され、地域の交流拠点としての機能も兼ね備えた、複合的な運営形態のクラブには本当に驚かされました。いつの日かJリーグでいわきFCを観る日が来るかもしれません。

2日間の東北遠征でしたが、サッカーで汗をかき、懇親会では審判仲間とサッカー談義で盛り上がり、地元サッカークラブの新しい運営スタイルを見学できた至福の時間でした。

サッカーを愛する者として、審判という形でサッカーに関われること、審判を通じてできた仲間と交流することは非常に素晴らしいものだと思います。ひとりでも多くの人にサッカー審判の魅力を感じてもらい、審判活動に関わっていたら幸いです。

～「日本サッカー審判協会」加入のご案内～
審判に興味がある人は、是非加入して下さい。
年会費は¥3,000-です。

「日本サッカー審判協会」で検索して、「入会申し込み」から入って下さい。その後、事務局から資料が送られてきます。全国・都道府県の会員数では、現在栃木県が全国第3位です。



筆者



総会にて



RA宇都宮

JFA第43回全日本U-12 サッカー選手権大会に参加して

大田原高校 伊藤慶太

2019年12月24日から29日まで、鹿児島県で行われたJFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会に関東・山梨代表の1人として参加させていただきました。最初はとても緊張していましたが、栃木県の黒澤幸樹さん、館岡孝弘さんもインストラクターとして参加されていたこともあり、徐々に緊張は解けとても楽しい大会となりました。

審判団は24日に現地入りし、開講式や講義、レクリエーションを行いました。2日目は午前にはフィジカルとプラクティカルトレーニングを、午後には大会開会式、選手との交流会、講義を行いました。3日目は、いよいよ予選リーグが始まり私は主審と補助審判を2試合ずつ務めました。開幕戦、あまりの緊張に、ボールを忘れ入場してしまいましたが、試合が始まれば伸び伸びと自信を持ったレフェリングができました。夜の講義では、ナショナルトレセンコーチで城彰二さんの弟さんが、日本サッカー発展のために、審判員がどのように関わっていくべきかについて、話してくださいました。4日目は予選リーグ第3節（最終節）とラウンド16で主審を務めました。また、この日は試合と試合の合間に元国際審判員で元PRの名木利幸さんと話す機会があり、勉強になることが多く、大変貴重な経験ができたと感じています。夜はJFA審判委員長の小川佳実さんが講義をして下さり、学ぶことがここでも多くありました。「1戦1戦全力でレフェリングを行う」という言葉が心に残っています。5日目、準々決勝と準決勝で補助審判を務めました。得点後のベンチコントロールが難しかったですが、準決勝で白浜スタジアムのピッチに立った時は最高の気分でした。最終日の決勝戦は、関東勢同士の対決だったということもあり、審判を務めることはできず観戦研修となりました。最後に、私に関わってくださる皆様のお陰で充実した大会を送れました。ありがとうございました。



準決勝右側が筆者



左から館岡孝弘氏、筆者、黒澤幸樹氏

J2級審判員として

小池 祐市

私は中学校の教員をしています。サッカー部の顧問をしながら、地区大会や県大会の審判業務に当たる中で、2018年の夏に茨城県で開催された関東中学生サッカー大会に審判員として参加しました。関東審判研修会も兼ねていました。1泊ではありましたが、刺激的で、充実した研修会になりました。その中で印象に残ったのが「審判と日常を結びつける」という言葉でした。

私がサッカー部の顧問をしている学校は、県南部の下都賀地区にあります。下都賀サッカーの合い言葉、「サッカー＝生活、生活＝サッカー」を念頭に置き、部活動指導を行っています。生徒も目標達成に向けて、頑張っています。そんな日常を送る私にとって、「サッカー＝生活、生活＝サッカー」と「審判と日常を結びつける」という言葉が重なりました。審判員として成長することが教員としての成長、さらには日頃接する生徒の成長につながると思いました。そして「選手が安全に、公平・公正な試合の中で、全力を出し切り、成長できるようなレフリング」がしたいという思いが強くなりました。

私は大学生の時に4級を取得しました。教員になってからは、下都賀地区サッカー専門部の先輩方から本当に温かいご指導をいただきました。今でも忘れられないエピソードがあります。ある時、審判としての悩みをある先輩に相談しました。するとその先輩は「全力でやるから、見てな」と、大会終了直後の練習試合で、大汗をかきながら私にレフリングの模範を示してくださいました。口にするのも恐縮なのですが、私の目指すべき審判像がこの時、明確になりました。あの時の感動は今でも忘れません。そんな先輩方と接し、指導を受ける中で教員、サッカー部顧問、そして審判員としての礎を築くことができました。3級取得後は、県大会で審判をする機会が多くなり、地区外の先生方との親交が深まりました。上級審判員やインストラクターの方々に試合を見ていただき、指導助言をいただくことも多くなりました。自分の未熟さを感じながら、どのようなレフリングが選手のために自分にできるのかを模索する日々が続きました。そんな時、関東中学生サッカー大会に審判員として参加できることになりました。関東各都県から派遣された審判員の方々と接する中で、審判員としての自覚と責任、意識の高さを体感す

ることができました。

そして、関東大会から1年後の昨年8月。2級昇級試験のお話をいただきました。身の引き締まる思いとともに、自分を成長させる良い機会と捉え、合格に向けて努力することを決意しました。昇級試験受験のための推薦をいただくまで、また、本番に向けてのトレーニングや競技規則テストの学習を進める中で、日頃ご指導をくださる先生方や栃木県審判委員会の皆様、同じ審判員の方々からたくさんの助言や激励の言葉をいただきました。本当にありがとうございました。

2019年10月19日、茨城県ひたちなか市で行われた2級昇格試験を受験し、合格することができました。審判員としての私を育ててくれた方々、一緒に活動する審判員の方々、そして今回このような機会を与えてくださった栃木県審判委員会の方々に心から感謝申し上げます。「選手が安全に、公平・公正な試合の中で、全力を出し切り、成長できるようなレフリング」を目指し、これからも精進してまいります。



(写真 左端が筆者)

2級審判員として

手塚 啓次

2019年度「サッカー審判員第2回2級審査会」を受験し、筆記試験、体力テストに合格し2級審判員へ昇格することができました。合格の連絡を受けた時は、大変、嬉しく感じると同時にほっとした気持ち、諦めずにやってきて良かったとの感情がありました。

私は、過去、2級推薦の話しを頂きながら見極め試合の主審としての内容が良くなく、最終的に推薦を頂くことはできませんでした。この様なこともあり、指導者の皆様や審判員仲間にも心配をおかけしている状況でした。

自分としては、今年度が推薦を頂ける最後の機会と肝に銘じて審判活動を始め、幸運にも推薦の話しを頂くことが出来ました。見極め試合に向け、各指導者や審判員からのご指導やサポートを頂きました。特に、ジュニアユース連盟の審判委員長の添田氏には、お忙しい中、数ヶ月に渡り、私の主審担当の試合を見て頂き改善点・アドバイスを頂きました。この様に様々な方々のご支援があつてこそ、見極め試合の主審の内容で無事、及第点を取り、正式に2級昇格推薦を頂くことが出来ました。ここで改めまして、支えて頂きました指導者及び審判員の皆様にお礼を申し上げます。誠に誠にありがとうございました。

正式推薦を頂いた後は、2級審査会で実施される筆記試験、体力テストに向けた取組みしました。体力テストは、日頃からトレーニングをしていたので、現状のままで問題ないと考え、特別なことはしませんでした。私にとっての課題は筆記試験対応でした。特に、今年度は競技規則の改正があり、新旧ルールの違いを把握、また、審判員仲間から過去問の内容や他の研修会で出題された問題などの情報も得ながら勉強に励みました。年齢的なこともあり、読むだけでは覚えられないため、繰り返し繰り返し何度も何度も競技規則の内容をノートに書き写しながら覚えていきました。この様な取組のおかげで、2級審査会を無事に合格することが出来ました。

さて、私が審判活動を始めたのは2008年になります。そのきっかけは、息子が地元のスポーツ少年団に入団しサッカーを始め、その当時のチームの監督から公式戦に参加するためには、チームとして帯同審判員が必要であり4級審判員の資格取得を依頼されたからです。当時は軽い気持ちで引き受けたため、帯同審判員として登録するための実技試験で不合格となりチームに迷惑をかけた苦い思い出があります。しかし、この出来事こそが、私の“審判をする”ことへの考え方を変え審判活動の原点となりました。

この経験から、より上手になりたいとの要求が強くなり、3級審判員昇格を目標に小学生年代の審判活動を続け3級昇格を果たすことができました。その後は、さらに上のカテゴリーでも審判活動をしたと考えるようになり、ジュニアユースチームの帯同審判員として中学生年代、その数年後には、高校生年代、社会人連盟にも参加し審判活動を続けてきました。その様な環境の中、前述の添田氏より2級を目指すなら審判トレセンに参加したらどうかとの勧めがあり、少しでも上手くなりました

いとの思いから参加させて頂き、座学やプラクティカルトレーニングから、審判員としてもパーソナリティーが重要な要素であることをはじめ、ポイント、ポイントで、今まで考えていなかったことに対しての気づきもあり、自分が成長するために多くのことを学びました。

最後になりますが、上述の通り、私の審判活動は、小学生年代から始まり、社会人リーグと幅広いものとなっています。今後はその活動をする中で、2級審判員として今まで以上に厳しい目で見られると思いますが、ワッペンの色に恥じないように、「公正」・「公平」・「安全」を念頭に審判活動に精進し、栃木県のサッカーに対して少しでも恩返ししていきたいと思っています。今後も宜しくお願い致します。



3級インストラクター 新規登録講習会に参加して

佐々木誠一

この度、宇都宮清陵高校の高山先生から3級インストラクター講習会のお話をいただきました。最初は「私でいいのか」という思いがありました。

ご存知の方も多いと思いますが、栃木県高体連サッカー専門部では以前よりユース審判員の育成を行ってきました。特に近年では、年間を通じて行われるリーグ戦のレベルを向上させる取組の一環として、平成29年度より各地区にて各高校のサッカー部員を対象とした新規4級審判取得講習会を実施してきました。各学校の顧問の先生方や県サッカー協会の協力をいただき、現在では1000名を超える生徒が4級審判新規取得、更新を行っている状況です。私はこの2年間、主に下都賀・両毛地区の新規取得講習会の講師を務めてきました。講師を務める以上、やはり専門的な知識や資格が必要である

と思い、受講を決意しました。

11月に参加した講習会は、午前の部が実際の試合の映像を題材にしたレフリーに関するグループ協議と発表、午後の部がグループでプラクティカルトレーニングのプラン（指導案）作成と発表という内容でした。午前の部で私は発表を担当しましたが、起こった事象を整理し、分かりやすく自分の言葉で説明することの難しさを痛感しました。午後の部においては、サッカーの技術指導と同じような指導案をレフリーのトレーニングでも作成していると知り、とても驚きました。この講習会を受講し、自分の未熟さに気付けると同時に、先輩インストラクターの方々の審判に対する情熱と、深い知識や尽きることのない探究心に触れることができとても勉強になりました。

12年前、茨城県の初任校で出会ったサッカー部の監督で元1級審判員の岩間保男先生に「良いサッカーの指導者なら、良い審判ができるのは当然だろう」と言われ、「その通りだ!」と納得したことをきっかけに、自分なりに真摯に審判スキルの向上に努めてきました。その信念は今でも変わっていません。今回のインストラクター資格取得をきっかけに、それに加えて「良い審判の先生」になれるように日々研鑽していきたいと考えています。



「素敵な誕生日」

奥澤 浩

2019年11月16・17日の両日、河内運動公園で第7回関東シニア（O-70）大会が行われた。この大会には、1都7県の8チームが参加した。

私は二日間で主審2試合、副審2試合を務めた。いつもの試合なら、私より年下の選手ばかりである。しかし、このカテゴリーでは私と同年齢は勿論、私より先輩の選手も数多くいる。丁度私が審判を始めた頃の風景である。その後活躍して日本代表となったり、女子日本代表の監督だったり、関東大学リーグで黄金時代を築いた頃の主将であっ

たりした。

やはり当時を思い出せば少々緊張してしまう。でもプレーを見たら、昔の面影が残っていたり、はたまた全く陰を潜めていたりとは様々であったが。

この大会で私は、最終日の最後の試合、決勝戦の割当てを貰った。これまで長く審判をやっていたので、誕生日に試合があるのは時々あった。しかし今回は、初めて決勝戦の主審である。この試合は、副審・手塚信行、青木均、第四審判・杉山峰夫の諸氏がサポートしてくれた。

試合は、神奈川（茅ヶ崎シニア70）対千葉（アスレチッククラブちば）の対戦である。前日にも神奈川は笛を吹いて、千葉は旗を振っていた。キックオフ前のコイントスで両チームの主将に「今日は私の72回目の誕生日なので、いじめないで下さいよ」と冗談半分に言った。すると両チームの主将は「分かりました。責任を持ってプレーします」と真面目に答えてくれた。

すると近くにいた、神奈川の一人の選手が口を開いた。この選手は前日の試合で、注意を与えた選手だった。咄嗟にプレッシャーを掛けて来たかと思っただけ。その選手は「私も審判を45年やっている」と言って来た。負けずに「私は52年だ」と返した。

更に相手は、何試合やっているのかと尋ねて来た。私は「公式戦だけで、もうすぐ3200試合になる」と返事した。すると「少年の試合ならやれるよね」と言うので、私は「少年の試合は入っていません」と言ったら、ようやく納得したのか「分かりました」とポジションに着いた。

決勝戦だから、お互いに勝ちたいだろう。試合だから当然反則はあった。でも反則の笛を吹いたら、反則をした方も、された方も何も言わずにプレーを始めた。ずっとである。注意が必要なプレーも皆無だった。私は、開始と終了の笛を吹けば良いだけの試合となった。

試合は前後半に1点ずつを決めた、神奈川が優勝した。両チームの主将がハーフタイムに、チームのメンバーに伝えてくれたのだろうか。終了後の握手で、両チームの多くの選手が「ナイスジャッジ」（これは多分にお世辞だろうが）、「誕生日おめでとう」と声を掛けてくれた。

更にシニア連盟からは、記念のボールも頂いた。最後には仲間から「ハッピーバースディ」の合唱も起こった。審判は素晴らしい。サッカーは素晴らしい。心に残る、素敵な72歳の誕生日となった。



右から2人目が筆者

2019年度 審判インストラクター トレセン事業について

審判委員会インストラクター部 館岡孝弘

栃木県では数年前から審判員育成事業で審判トレーニングセンター、いわゆる「審判トレセン」を開催してきました。このトレーニングセンター発足により、上級審判員が次々と誕生しており、Jリーグ、なでしこリーグ、全国大会、地域リーグ等、各方面で活躍しております。

2018年にJFAが栃木県に訪問し行われたレフェリーキャラバンでは、栃木県の各種別の代表者などが集まり、審判指導者の指導方法について話し合い、良い審判員を育てるには良い指導者を作らなければならないという結論に至りました。

関東地域では2017年から地域審判インストラクターを対象に講師養成を行っており、2019年度からは各都県（1都7県）でも審判インストラクタートレセンを開催することになりました。講師は前述の関東地域で講師認定を受けた方にお越しいただき、指導をしていただいております。

イントレにはスキルアッププログラムがあり、技能スキルと称する今後の審判指導者に必要な技術が5項目上げられています。それぞれの技能スキルごとに受講単位やランクが決められており、将来的にはインストラクターの資格更新や、上級への受験資格にもなるそうです。5項目の技能スキルは以下の通りです。

- ① I Tスキル（審判員の指導教材を I T 技術を活用して作成・編集できる技能）
- ② アナリシス（審判員のパフォーマンスを適切に分析・評価し、改善に役立てる方策）
- ③ チュータリング（審判員に積極的に参画させ、自ら課題を見つけて改善方法を見出せるようにする指導手法）

- ④ プラクティカル（試合状況を模擬して、パフォーマンス改善の試行をさせるトレーニング）
 - ⑤ フィジカル（審判員のフィジカルパフォーマンスをチェックし向上させる知識やスキル）
- 2019年度栃木県では、アナリシス、チュータリング、プラクティカルの3つの項目のイントレを開催いたしました。2020年度は I T、フィジカル、チュータリング、アナリシスの4つの項目についてのイントレを計画したいと考えています。

最後に審判インストラクターの資格をお持ちの方にはお願いです。是非、積極的にイントレを受講していただき、栃木県の審判員に還元できるよう活動へのご協力をよろしくお願いいたします。



2020年度 サッカー審判資格（4級）新規取得講習会

2020年2月14日（金）時点

No.	月日	曜日	講習会主催	会場	定員	受付時間	講習時間	申込開始	申込締切
1	2月8日	土	小山市協会	小山工業高等専門学校	100名	9:00～	9:30～15:30	12月9日（月）	1月24日（金）
2	3月14日	土	栃木県協会	栃木県総合教育センター	300名	9:00～	9:30～15:30	12月9日（月）	2月28日（金）
3	4月29日	水	宇都宮協会	宇都宮市田原コミュニティプラザ	100名	9:00～	9:30～15:30	4月6日（月）	4月15日（水）
4	5月17日	日	芳賀郡市協会	真岡市スポーツ交流館	100名	9:00～	9:30～15:30	4月6日（月）	5月1日（金）
5	5月30日	土	佐野市協会	佐野市犬伏地区公民館	100名	9:00～	9:30～15:30	4月6日（月）	5月15日（金）
6	6月7日	日	大田原市協会	大田原市立西原小学校体育館	100名	9:00～	9:30～15:30	4月6日（月）	5月22日（金）
7	6月13日	土	足利市協会	足利市生涯学習センター	100名	9:00～	9:30～15:30	4月6日（月）	5月29日（金）
8	7月18日 （予定）	土	小山市協会	小山工業高等専門学校	100名	9:00～	9:30～15:30	6月1日（月） （予定）	7月3日（金） （予定）

※ 記載内容に変更があるかもしれませんので、栃木県FAのホームページでもご確認ください。

2020年度 フットサル審判資格（4級）新規取得講習会

2020年2月14日（金）時点

No.	月日	曜日	講習会主催	会場	定員	受付時間	講習時間	申込開始	申込締切
1	3月22日	日	フットサル連盟	清原工業団地管理センター	50名	15:00	15:30～18:40	1月20日（月）	3月6日（金）

※ 記載内容に変更があるかもしれませんので、栃木県FAのホームページでもご確認ください。

栃木県フットサル審判員大募集！

栃木県の各種大会（県リーグ、全日本選手権、大学選手権、全日本U18、U15、バーモントカップ等県予選）の審判員を大募集します

4級審判員の方でも、大丈夫！
3級審判資格取得まで、
ベテラン審判員が、優しく丁寧に
指導いたします



2014年度3級昇格仲良しコンビ(^~)/

自宅と会社の往復だけでは味わえないハラハラ
ドキドキと、他では得られない達成感を味わって
みませんか？

<問合先> 栃木県サッカー協会審判委員会フットサル部
部長 速水 仁 メールアドレス: tfa.f.ref.2016@gmail.com

技術強化委員会

第14回栃木県フットボール
カンファレンスを開催して「学ぶことをやめたら、
教えることをやめなければならない」

指導者養成部 チーフインストラクター 榎 剛

令和2年2月2日（日）、とちぎ健康の森にて第14回栃木県フットボールカンファレンスが行われた。テーマは「栃木県のサッカー発展のためにできること」～栃木県サッカーの普及・育成・強化を考える～とし、約300名の指導者が参加した。

内容は以下のとおりだった。

- 1 オープニング 挨拶
(公社) 栃木県サッカー協会 星野 務 会長
- 2 基調講演
「世界基準を日常に 本気で日常を変える」
～世界のトップ10を目指して～
JFAインストラクター 山口 隆文 氏
- 3 発表
 - ①知的障害者選抜の取組
知的障害者選抜 遠藤 雄二 氏
 - ②栃木県U-14タイ遠征報告
栃木県トレセンU-14セントラルチーフ
渡部 真宏 氏
 - ③国体強化策について
栃木FA技術委員会強化部長 臼井 紀仁 氏
- 4 座談会 (パネルディスカッション)
テーマ 「栃木県サッカーの普及・育成を考える」
司会：栃木FAチーフインストラクター 榎 剛
栃木SC育成部長 只木 章広 氏
栃木FA審判委員会 舘岡 孝弘 氏
栃木FAキッズチーフインストラクター
稲垣 浩充 氏
栃木FA GKプロジェクト 細井 暁 氏
- 5 講演 「大学サッカーの取り組み」
筑波大学蹴球部監督 小井土 正亮 氏
- 6 クロージング

今回のカンファレンスでは、大きく2つの観点で行った。JFAインストラクターの山口氏にお話

いただいた「基調講演」や栃木FA技術委員会強化部長の臼井氏からの「国体強化策」（2022年に栃木県で行われる「いちご一会国体」「いちご一会大会」に向けた強化策）などの「育成・強化」という観点。

もう1つは、座談会（栃木SC全日本U-12大会報告、審判育成、キッズの取組、GKの取組）や遠藤氏による知的障害者選抜の取組などの発表などの「普及・育成」という観点である。

ここ数年の栃木県のサッカーを考えた時に、カンファレンス当日にも資料に掲載した「2019年度のTFA活動目標」にあるとおり、2022年に本県で行われる「いちご一会国体」「いちご一会大会」での総合優勝するための行動計画を推進していくこと、すなわち「育成・強化」の観点がまず第1に求められると思うが、それだけではなく、栃木のサッカーの発展のためには、サッカーファミリーの拡大（グラスルーツの普及促進）が必要だと考え、今回のテーマと内容に至った。

特に「普及・育成」の観点では、サッカーの競技人口が減っていることから、サッカーファミリーの拡大のためにしなければならないこと、グラスルーツについてなどさまざまな角度からお話いただいた。「大学サッカーの取り組み」というテーマで筑波大学蹴球部監督の小井土正亮 氏からオフザピッチ、オンザピッチ両面での人間育成やチーム強化の講演をしていただいた。

全般としては、もっと内容を深掘りさせることや進行などで課題は残ったが、テーマについて参加者と共有すること学ぶことができたと思う。

そのような意味では、このフットボールカンファレンスの目的の1つがベクトルや考え方を「共有」することや「学び続ける」ことであり、栃木のサッカーの発展のためには、もっと多くの指導者・関係者がそれぞれの考えを持ちながらも、多くの議論を重ねながらベクトルを「共有」すること、そして「学び続ける」ことが重要であると考え。今回、種別によっては当日に大会や会議があり、このフットボールカンファレンスに参加したい指導者が参加できない状況があった。

2022年には本県で「いちご一会国体」「いちご一会大会」が行われる。地元開催で総合優勝するためには、本県サッカー界もいわば「オール栃木体制」で臨む必要があると考える。1種～4種、女子、障害者など全てのカテゴリーの指導者・関係者が1枚岩になって「共有」して臨みたい。

そして国体以後も、強いチームをつくるため、

良い選手をつくるため、サッカーに関わる人材を育成するために、「学び続ける」指導者をより増やしていきたい。

「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならぬ」

今回のフットボールカンファレンスを開催し、改めてこの言葉が胸に響いた。今回の開催を糧にし、反省点は改善し、より良いフットボールカンファレンスにしていきたい。



医事委員会

CONMEBOL COPA AMERICA
BRASIL 2019に帯同して

医事委員会副委員長

芳賀赤十字病院 河又典文

2019年6月に男子日本A代表にドクターとして帯同したので報告する。現在日本協会では2大会前のブラジルW杯から帯同ドクターを整形外科と内科の2名体制でサポートしている。今回、他にトレーナー4名とメディカルチームを組んで活動した。整形外科医師が怪我や障害の対応に専念する一方で、自分は内科医師としては、下痢や発熱といった内科疾患の対応以外にも、主として事前予防接種のマネジメント、ロングフライトでの時差対策、不眠疲労対策、ドーピングコントロール対応、試合前後でのCK（クレアチンキナーゼ：筋疲労や障害の指標）採血分析、プレマッチミーティングへの出席などの多岐な活動を行なった。日々のスケジュールとしては、午前には個々の選手のコンディションチェック、午後はトレーニングへの準備・帯同、夕食後メディカルルームでのCK採血、深夜にメディカルミーティングやデータ集計報告作成、といった内容であった。

内科医は、個々の選手への直接の関与は少ない一方で、いわゆる「縁の下の力持ち」的な活動が非常に多く、多忙な3週間であった。他方ではやはり整形外科医師やトレーナーといった他のメディカルスタッフの毎日のハードな選手へのサポート活動に、頭が下がる思いであった。同時に、監督コーチの熱意、相手チームに対する分析スタッフの不眠不休の活動、エキップや主務といったサポート事務スタッフの気遣いなど、様々なスタッフの高いプロ意識を持った質の高いサポート活動を目の当たりにし、感服させられっぱなしであった。その甲斐あって、職種間の垣根なく、選手スタッフ一丸となって非常に雰囲気の良いチーム活動であったと思う。幸い期間中は重篤な障害対応は発生しなかった。

結果は、初戦チリに0-4と大敗であったが、第2戦に強豪ウルグアイに三好の2ゴールで2-2と引き分けた。最終戦、勝てばグループリーグ突破と日本サッカー史上初の本気のブラジルとの対戦が想定された一戦であったが、惜しくもエクアドルに1-1で終わり、実現には至らなかった。



奥澤 浩

宇都宮大学サッカー部OB会

飯山 勝一

猪瀬 和人

円印刷株式会社

NPO法人たかはら那須スポーツクラブ



人と自然が調和した街づくり目指す

鈴運メンテック株式会社



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857
 宇都宮市鶴田2丁目2番10号
 TEL 028-648-6241(代)
 FAX 028-648-8318
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

- 発行 公益社団法人 栃木県サッカー協会
- 編集 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
- 発行責任者 星野務 村上富士夫
- 印刷所 円印刷株式会社